昭和一四年一一月

海外情報

第二次歐洲大戰に於ける兩陣營の經濟力

國政研究會

群馬県立図書館
中島文庫

6603
注意事項
○資料は大切に扱いましょう。
○資料は転貸借はお断りします。
○15日間の期限に必ず返して下さい。
○資料を汚損または紛失した時は同一の資料又は相当代価を弁償していただきます。
群馬県立図書館
前橋市日吉町一丁目14-8
電話（0272）㉛3008番

海外情報

第二次欧州大戦に於ける
両陣営の経済力

昭和一四年一二月二日

國政研究會

國政研究會

13, 10, 10,000―オカモトヤ印

序

今次の欧洲大戦は大体英、佛を中心とする同盟國側と独、伊を主体とする枢軸國側とに分れ之に対しソ聯の枢軸側への加担、米国の同盟側の援助其他小弱中立諸國の動向に依つて両陣営の戦争遂行力が決定せらるのであるが、マンパワー、エコノミック、ポテンシャルを(不完全乍ら入手し得る限りの資料により)調べ、両陣営の作戦力を比較すれば、此の数頗る興味あり且我国の東亜新秩序建設の参考となるべきところ多からんか。

昭和十五年十二月二日　国政研究会

13, 10, 10,000—オカモトヤ印

目次

一、戰時經濟と戰後經濟
二、ドイツ工業生産力の低下
三、ドイツの物資割当制
四、ドイツの石炭難
五、ドイツの食糧供給問題
六、ドイツの要する物資とソ聯の資源
七、獨ソ貿易關係
八、ソ聯の國勢概觀
九、英國の武器庫としてのカナダ
一〇、カナダの戰爭準備
一一、濠洲の對外貿易

國政研究會
13, 10, 10,000—オカモト印

一二、トルコ黒海の軍備、
一三、トルコ黒鉛
一四、瑞典の鉄鉱
一五、ラトビアの工業
一六、バルチック沿岸三ヶ國

池上、

13, 10, 10,000–オカモトヤ印

一、戦時経済と戦後経済

九月二日　エコノミスト誌

今や第二次世界大戦に直面して居るとき、最早論議の中心は準戦時経済から戦時経済そのものに移つて居る。戦争の勝敗は、野戦よりも寧ろ國内産業により決定されると云ふことは、第一次世界大戦に際しては未だ寧ろ漠然たる概念であつたが、今日では既に常識となつて居る。第二次世界大戦が起るとすれば、それは軍隊の戦たると同時に、最初から産業力を總動員して掛つた世界史上最初の大戦争である。即ち、産業革命が今日完全に人類殺戮に適用されたのである。

附録の「列強國力比較表」は、諸列強の戦時経済力を評價するに最も必要な統計項目を集めておいた。此の表だけで説明は充分で、詳細に研究する必要がある。然し、二三の點については指摘しておいたがよかろう。切迫しつゝある第二次世界大戦に際しての対立陣営は未だ確定して居ない。併し、恐らく、大英帝國、佛國、波蘭及土耳古が一方の主要同盟國として、独乙及伊太利に対抗するであらう。次の表は、両陣営の重要項目の合計數を比較したものである。

白人種人口と鉄鑛産額、とは両陣営とも殆んど同じである。然し、デモクラシー同盟諸

	大英帝國、佛國及その植民地 波蘭、土耳古	大独乙 伊太利
全人口	六八五、〇〇〇、〇〇〇人	一四二、〇〇〇、〇〇〇人
その内白人種人口	一六六、〇〇〇、〇〇〇人	一三四、〇〇〇、〇〇〇人
商船噸數	二三、九〇〇、〇〇〇噸	一七、五〇〇、〇〇〇噸
鐵鑛石産額	二三、六〇〇、〇〇〇瓲	四五、〇〇〇、〇〇〇瓲
鐵鋼産額	二六、三〇〇、〇〇〇瓲	二七、三〇〇、〇〇〇瓲
石炭産額	四〇三、一〇〇、〇〇〇瓲	二〇一、〇〇〇、〇〇〇瓲
自動車製造台數	九二六、〇〇〇瓲	四三九、〇〇〇瓲

國はその白人種人口の外に、數億に達する有色人種を有し、その鐵鋼年産額は國内に多量の鐵鑛石と石炭とを産する有利な地位にある。且つ、同盟國側は多少に拘らず殆人ど全世界から資源を入手出来るが、枢軸國側は匈牙利、羅馬尼、スカンヂナビヤ及バルチック諸國等のほか、ソ聯から供給をうける。從って、両陣営とも國内資源にのみ頼る必要はない。然

13.8.20.000 オ納

し、デモクラシー同盟諸國は、國內資源の大なるに加へて、物資輸入に非常な有利な立場に居り、約言すれば、全経済力を展開する總力戰に於て、デモクラシー同盟諸國は圧倒的に優勢である。

統計を單に比較するだけでは充分でない。國家の戰爭力 War Potential を計るには、全労働力 Total Labor Force 即ち産業力 Industrial Capacity を以てしたのでは不完全である。それは、最小限生活標準で必要とする純生活必需品を生産供給した上に更に使用し得る殘りの産業力を以てせねばならぬ。此の産業力の限界は、平時には生活標準を高めるに貢献し、戰時には戰爭遂行の目的に振向けられる。旧い戰術概念では、戰爭の第一條件は人間力 Man Power であった。一九一四年ですら、不思議にも此の根本観念は少しも進歩して居なかった。軍隊が大砲力により装備されねばならなかったのは事実である。然し一九一四年八月ウォルター・ラテナウが独て軍需省に臨んだ際に、重要物資を確保する問題に何等考慮を拂って居なかった程だから、非常に高度化された兵器を使用せねばならぬ當時ですら産業戰には思ひ及ばなかったと考へられる。

13.8.20.000 オ納

今日は、新しき戦争の本質が廣く認識されて居る。然し、富める國家がもつ非常な強味が恐らくは充分に評價されて居ないだらう。人間力が戦争の第一條件だつた時代には、富めるも貧しきも人間は結局人間であつた。然し、國家の産業力が戦線に展開される今日の戦争では、人間の重要性は銃をうつ力ではなく、生産する力で計らねばならない。英國と独逸との國民所得を比較すると此の點が容易に例示できる。一九三八年は領土の変更などがあつたから、一九三七年の數字をとつてみるに、独逸の國民総所得は、世界で最も材料豊富且つ權威ある統計學者アドルフ・ヒットラーに見積らせると、六百七十億馬克である。同年の独逸人口は六千七百万人だから、一ケ年一人当り所得は一千馬克となる。馬克と磅の比率を十六馬克が一磅とすれば、此は一ケ年一人当り六十二磅半となる（此の比率は公定率とブロック間の為替交換率との中間にあり、購買力の比率に大体同じである）此に対して、英蘭の國民所得は一ケ年一人当り百十磅であつた。平時戦時を問はず、國民所得への最初の負擔は、最小限生活費である。英國では、農業保護のため食料品價格が非常に高騰して居るので、最小限生活費が独逸より

も多くなって居る。然し、最小限生活費、を合理的に見積れば、必要な場合戦争目的に動員さるべき限界は独てよりも英國の方が非常に大きいことは明らかである。換言すれば、平均英國民は平均独國民よりも戦争のため余計貢献できる譯である。また、現在の大独乙の國民総所得額は英國と殆んど同額、だが、戦時生産が始るまでは此の國民総所得で二倍の人口を支へねばならないのである。

斯く論議すれば、富めるデモクラシー同盟諸國の戦争力が相手國よりも遥かに大なりとの結論が得られる。然し、此にも二つの厳格な條件がある。第一には、攻撃軍の破壊から自國産業を保護するに足るだけ最初から武力が強くなければならぬ、これはマヂノ線の任務であり、防空及び英國艦隊の使命である。第二には、デモクラシー諸國が普通の平時消費物資を生産するに必要な労働力と産業施設を最小限に節減して、戦時動員、すべき産業優越の限界を出来るだけ大きくする準備をして居ることである。然し、此等両條件が充実されれば、デモクラシー諸國が産業戦に完全な勝利を得ることに疑の余地がない。然し、戦争が終った後の

世界はどうなるか。これまで論じ来つた処を戦時経済とすれば、戦後経済はどうなるか。戦争が長びいた場合、世界は全く窮乏化して、今日の~~[illegible]~~余裕ある生活は單に悲しき追憶のみとなつてしまひはせぬか。冷靜な理智で判断すれば、斯る感情的な結論は直ちに根據なきことが判る。戦争は生命と財産に大損失を與へて戦後の社會~~[illegible]~~が富の生産の程度で貧窮化することは事実である。然し、社會は過去の富の蓄積には僅かの程度しか依存せぬもので、社會が現に消費して居る物資は大部分現に生産して居るものであるから、戦争は國家の生産する力を害する程度にしか國家を窮乏化せしめない。戦後の生産力に戦争が影響するには三つの方法がある。第一は工場破壊とか船舶撃沈とかの資本施設破壊である。然し、空爆被害が單に數学的に計算出来るほど大きくないものとしたら、生産施設の被害程度は一年二年ぐらいの刻苦経営で復興するに譯はない、第一次世界大戦に際して、その休戦後非常な速度で復興して行つた北部佛國の戦野の砲撃被害ほど、空爆被害は劇しいものでは確かにないだらう。第二に外國に於ける資産を貢拂ふ

13.8.20.000 オ納

ため、收入を永久に失ふ危險がある。尤も、海外投資からの英國の收入は、國民總所得額の僅か四%に過ぎないから此は問題でない。第三の最も重要な危險は、輸出市場を永久に失ふことである。此を避けるためには、戰時、不可缺の軍需産業を除いては輸出品産業に最優位が與へられて、外國貿易を確保せねばならない。

戰爭とは、單に戰時中を通じて夥しき血と富との犧牲を拂はしめるだけでなく、戰後社會の富を生産する力を減小せしめるものである。然し、冷靜に判斷すると、此の損害の危險は餘り大きくはない。第一次世界大戰の經驗が此の判斷を證據づけてくれる。コリン・クラーク氏 Colin Clark の推計によれば、英國に於ける就業勞働者一人當りの純生産額（これは平均英國人の生産額であり、從って消費額である）は一九一三年より一九二四年が少し高くなって居る。換言すれば、休戰後五ヶ年にして、平均英國民は、勞働時間が十分の一に減小したに拘らず戰前の水準に立歸って居る。然し、此の計算は就業して居る勞働者

13.8.20.000 オ納

一人平均について行ったものである。戰爭が齎らす最も重要な影響は、經濟組織の生産力が減退することではなく、産業組織の混亂が戰後失業となって現はれて、實際生産が生産力より少くなることである。然し、此の困難は回復するに機能的な支障はないから自ら克服して行くことが出來。また、戰時に於ける産業組織の混亂を最小限にし、異常な消費増加を極力抑制することを、戰時經濟政策の一任務とせねばならない。

従て、戰後の状態に甚しく誇張的な恐怖をいだく理由は殆んどない。ボールドウヰン卿の有名な言葉は大体忘れても差支ない。「西欧に更に再び大戰が起ったら、我々の知つて居る現文明は終りを告げるであらう」勿論、戰爭は不測の混亂を生ぜしめて、ボールドウヰン卿の住んだ社會はその社會特質を失ったのである。然し、無政府を恐れる人々は次のことを考へて自ら安んずべきである。即ち、激しい階級不正が執拗に存在し強力な革命党が活潑に活躍した場合以外には、血の革命（非立憲的な手段で[illegible]單に政権が変る程度の革命とは区別して）が歴史上未だなかったのである。英國には此

13.8.20.000 ヲ納

等両條件とも存在しない、[illegible]飢餓と戦敗の独乙に於ける一九一八―一九年ですら殆んど大した混乱がなかつたし、ナチ党の革命的擾乱も戦争自体よりも寧しろ戦後のインフレーションに端を発したものと一般に認められて居る。

戦争は政治的変化を齎らす。國家支配の波は一度進むと、再び完全には元通りとならない。然し、コンミユニズムかファシズムかを予言するは、根據のないヒステリーである。恐らく、英國は次の戦争からも秩序と組織を維持して脱出しデモクラシーを確保するであらう。且つ戦争は被害と共に、その反面に効果をもつことを忘れてはならない。英國では一九一四―一八年の戦争によつて形式的には選挙権の最終拡張が行はれ、非形式的には階級区別が全廃されて、デモクラシーの大進歩が齎らされた。また表面上餘り言はれはしないが、社會的儀禮や陋習が著しく自由となり、社會に新鮮な空気を注入するに役立つた。戦争がなかつたら、何年たつても成就できなかつただらうと思はれる社會的進歩、例へば婦人の解放、理解的な教育法の完成、労働組合の凱歌、労働時間の一掃的短縮、最低賃銀労働者の生活及労働状態の向上などに著しい進歩

13.8.20.000 ヲ納

をみた。勿論戦争は、前の社会秩序に密接な利害をもつ人々には悪影響を與へるが、一般民衆が、戦後の大不安と差引いても尚ほ富と幸福との儲けものをして居るかどうかは一應考慮の余地がある。

然し、斯る考へを進めて、戦争のバランスシートで資産が負債よりも大きいとか同じとか考へるに至るは明らかに愚である。戦争が續く間の心配と悩みと破壊とは、何としても一掃できないものである。戦争には何等儲けものはない。唯、不幸を更に大きくせぬだけである。然し此の小論で述べた事実と議論とは、敗戦主義への解毒剤となろう。戦争の所産にもその後の影響にも何等絶望する必要はない。

國政研究會

列强國力比較表

國名＼單位	總人口（百万人）	内從屬民人口（〃）	商船噸數（百万グロス噸）	鉄道貨物輸送力（一粁当り十億噸瓲）	一九三八年末使用中の自動車⑧（千輛）	生産量：自動車⑧（千輛）	石油：石油原油（百万瓲）	石油：ガソリン（百万瓲）	石油：燃料用重油（百万瓲）	石炭：石炭及無煙炭（百万瓲）	石炭：褐炭（百万瓲）
英王國	四七・四	—	一七・八⑥	二六・四⑥	二、五四二	四九三⑦	—	〇・五	一・一	二四四・三⑦	—
その他の英帝國①	四四九④	四九六	二・九⑥	六六・五⑦	三、二四一	二〇七⑦	六・八⑥	二・五⑦	四・九⑦	六八・九⑥	七・九⑩
佛國②	四二・〇	七〇・〇	二・九⑥	三五・一⑦	二、四六一	二二三⑥	—	二・二⑦	二・五⑦	四九・二⑥	一・一
波蘭及立陶宛	五一・三	—	〇・三	二〇・四⑦	五一	三⑥	〇・五	〇・一	〇・一	四〇・七⑥	〇・一
羅馬尼亞及希臘	二六・七	—	二・〇	五・二	四二	—	七・三⑦	一・六⑦	三・六⑦	〇・三	二・二
独乙③	九〇・七⑤	—	四・二	八四・〇⑦	一、七七八	三六四⑥	一・二	一・四	〇・五	二〇〇・〇⑥	二〇六・六⑥
伊太利	四三・〇	八・六	三・三⑥	二一・一⑦	三八九	七五⑦	—	〇・四	〇・七	一・〇	一・三⑥
西班牙	二五・〇	一・〇	一・三⑩	—	一八二	—	—	—	—	七・〇⑨	〇・三
匈牙利	九・〇	—	—	二六	三	—	—	〇・一	〇・一	一・〇	八・三⑥
蘇聯邦	一六九・〇	—	一・三⑥	三五四・八⑦	六七八	二一五⑥	二九・九⑥	六・三⑦	一〇・〇⑩	一三三・九⑥	—
オスロー國家群⑪	三三・九	八六・六⑪	二・二⑥	一六・六⑦	九七六	三	七・四⑥	五・六⑥	二〇・八⑥	四六・八⑦	〇・三
バルチック國家群⑫	五・七	—	〇・四	一・二	一六	—	—	—	—	—	—
米國	一二九・八	一六・〇	一一・九⑥	五三五・七	二九、二二三	四、八〇九⑦	一七二・九⑦	六〇・七⑦	六五・九⑦	四四八・四⑦	—
全世界	二二五・六	—	六七・八⑥	—	四二、九一二	六、三六二⑦	二七九・七⑦	—	—	一三〇七・四⑦	二三七・〇⑥

國名＼單位	鉄鑛（金属分のみ）（百万瓲）	銑鉄及合金鉄（百万瓲）	鉄鋼（鋼塊其他）（百万瓲）	銅（精錬）（千瓲）	鉛（精錬）（千瓲）	羊毛（粗毛）（千瓲）	小麦（一億瓩）	ライ麦（一億瓩）	バター（千瓲）	人造バター（千瓲）	甜菜糖（精製）（一億瓩）	甘蔗糖（精製）（一億瓩）
英王國	四・三⑦	八・六⑦	一三・二⑦	一三・六⑨	二二・四⑨	五〇・〇⑥	二〇・〇⑥	〇・一	五四・四⑩	二二・六⑥	五・三⑩	—
その他の英帝國①	五・七⑦	三・九⑦	三・七⑦	四五七・二⑦	四四四・三⑦	七七〇・六⑦	二五五・八⑥	三・〇	六〇六・六⑩	一八・二⑩	一・四	五〇・〇⑥
佛國②	一三・三⑦	七・九⑦	七・九⑦	一・〇	六七・五⑥	六七・一⑦	一二〇・二⑥	八・一⑥	二四〇・七⑦	—	八・七⑦	一・九
波蘭及立陶宛	〇・三	一・〇⑥	一・五	二・二	八・二⑦	三七・五⑥	六四・二⑥	七七・〇⑥	—	二・九⑨	五・六⑦	—
羅馬尼亞及希臘	〇・三	〇・一	〇・二	一・四	一六・〇⑦	三七・五⑨	五八・〇⑨	五・八⑥	一八・二⑨	—	一・四	—
独乙③	四・〇⑦	一九・八⑥	二五・〇⑥	七二・六⑥	一九〇・〇⑥	二一・二⑥	七八・二⑥	一〇八・八⑥	六〇六・〇⑦	四三三・五⑮	二八・〇⑦	—
伊太利	〇・五	〇・九	二・三⑥	二・九⑥	四三・三⑥	一三・六	八〇・九⑥	一・四	四五・〇⑬	二・五	三・六⑥	—
西班牙	一・二⑥	〇・五	〇・五	三・〇⑥	七〇・六⑨	二九・九⑩	四三・〇⑨	四・九⑨	七・二⑭	—	二・三⑩	〇・一
匈牙利	〇・一	〇・四	〇・七	—	〇・一	七・五	二六・九⑥	八・〇	一一・三⑦	—	一・三	—
蘇聯邦	一四・〇⑩	一四・七⑥	一八・一⑥	九五・五⑥	五五・〇⑦	一三七・六⑥	四〇二・四⑦	二一三・六⑨	一八七・八⑩	六九・二⑬	二四・〇⑦	—
オスロー國家群⑪	一二・二⑦	七・五⑦	七・五⑦	二六・九⑦	八五・〇⑦	六・四	二五・八⑥	二〇・一⑥	四六五・九⑦	三三九・八⑥	一〇・六⑦	一五・八⑥
バルチック國家群⑫	—	—	—	—	—	四・六	五・三	二一・九⑥	五四・七⑦	—	〇・七	—
米國	三七・三⑦	三七・七⑦	五一・四⑦	八〇三・三⑦	四二三・九⑦	二〇七・六⑥	二五三・三⑥	一四・〇⑥	一〇四一・八⑥	一七九・九⑦	一五・三⑥	四・九⑯
全世界	九八・〇⑦	一〇四・七⑦	一三五・〇⑦	二三三八・〇⑦	一六九〇・〇⑦	一七八〇・〇⑥	—	—	三三五〇・〇⑦	一三五〇・〇⑥	一〇一・七⑦	一七九・九⑩

［説明］

各國の最大生産力を示すため、表中の數字は總べて一九三六—三八年間の最大年産額によつた、例へばバルチック國家群の如く數ケ國が纏められる場合には、その群の最大生産國の最高生産額の年の數字である。

説明の註

①…委任統治領を含む
②…植民地及委任統治領を含む
③…一九三七年現在墺太利及チエッコスロバキヤを含む
④…自治領の全人口 但し從屬民人口に含まれたる南阿聯邦有色人は除く
⑤…ダンチッヒの人口を含む
⑥…一九三八年
⑦…一九三七年
⑧…自家用及商業用車のみ
⑨…一九三五年
⑩…一九三六年
⑪…白耳義、丁抹、芬蘭土、ルクセンブルグ、和蘭、諾威、瑞典諸國で、統計が得られたる場合にのみ、白耳義領コンゴー及和蘭領植民地をも含む
⑫…エストニヤ、ラトヴィヤ、リトウニヤ
⑬…一九三四年
⑭…一九三三年
⑮…一九三六年独乙のみ、因にチエッコスロバキヤ一九三四年産額は七万瓲
⑯…一九三八年但し比律賓を除く（比律賓は一九三六—三七年に十億瓩）

二、独乙工業生産力の低下

エコノミスト 九月一日

独乙工業生産力の高水準は、最近独乙経済の最も印象的な現象であった。独乙を痛烈に批評する人ですら、今日の独乙工業總生産額は、ナチスの政権獲得当時の実に二倍以上に達して居ることを認めざるを得なかった。尤も、その一九三三年は深刻な不景気の年ではあつたが……。今日欧州に戦争の危機が迫って居るとき、独乙工業の将来は果して如何。

一九三二－三三年の冬、独乙には六百万人以上の失業者が居たことは一般に知られて居る。産業人口の約半分が失業して居り、然かも平均労働時間は七時間以下であった。今日の独乙では、失業問題は事実上解消してしまったのみでなく、非常に深刻な労働力不足に悩んでゐる。数百万の工業労働者は毎日十時間又は其以上働かされて居るし、多数の中産階級、職人、小商主などは續々と転業して工場に入って居る。女子労働も奨励されて、或る地方の如きでは郵便夫、電車従業員、エレベーター係などは殆んど全部女子に代へられた。

独乙の工業は大拡張が行はれ、その結果として自然に生産額が増加した。問題は工業生産額

13, 10, 10,000–オカモトヤ印

が拡張と比例して増加したか否かである。

独乙工業生産力（一九三二―三八年）……一九三二年を一〇〇として、

	總生産	總労働時間	一労働時間当り生産
一九三二年	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九三三年	一一二	一一五	九七
一九三四年	一四二	一五一	九四
一九三五年	一六三	一六四	九九
一九三六年	一八二	一八三	九九
一九三七年	一九九	二〇一	九九
*註 一九三八年	二〇三	二〇八	九八

註、一九三八年の数字は墺太利を含み推計である。

此の表の数字は独乙重業調査研究所発表によるもので、最初の二つは夫々独乙工業の總

13, 10, 10,000-オカモト十印

生産額と総労働時間を示したもので、生産額は労働時間よりも増加が遅れて居る。最後の指数は一労働時間当りの生産額であるが、之は一九三二年以降徐々に低落傾向を示して居る。

工業生産力の低下は一見小規模ではあるが、実に驚くべきである。一九三三年以降の独乙の如く工業就業者が増加した場合、その機械設備を充分に利用して一労働時間当り生産額は相当に増加するのが普通である。例へば、独乙でも、一九二五年から一九二九年にかけての上昇期には一労働時間当り生産額は約二九％増加して居る。最近不況時代から徐々に回復しつゝあるデモクラチック諸国でも同様な傾向があり、例へば一九三〇年から一九三五年までの英国工業は一就業者当り生産額の増加は約二七％であつた。英国の標準で行くと、独乙の総労働時間では一九三二年よりも一九三八年には少くとも二〇％の増加が当然である。然るに実際は減つて居る。之は此だけの不利ではない。曾て労働組合その他労働組織があつた当時より今日の独乙労働者は苛酷な條件の下に働いて居ることを忘れてはならない。詰まり、労働時間の外に、労働量も増えて居る。独乙工場監督官ですら「労働量は一般に多い」といふ事実を隠しては居ない。社会保険方面の

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

の記録によっても、今日の労働者が罹病にかかる率は一九三二年よりも約二八%五も増えて居る。百労働者家族当りの死亡数は一八%も増えて居る。

独乙工場生産力低落の原因は他にもある。即ち、独乙事業調査研究所が屡々指摘して居るように、業態悪化して大不況時代に閉鎖された工場が、最近景気回復に伴って再開して居る。昔通りの経済状態ですら、非能率的な工場を再開すれば、全体の生産力から見ると云はゞ二年ぐらい妨げられるのだから、今日の独乙への非能率的工場の影響は相当に大きいであらう。然し、独乙最近七年間の総工業生産力のうち、金属工業の如き特殊工業の生産額は相当に増えて居るのだから、之の理由だけでは全体の生産力低下は説明できない

最近の独乙の経験では、実質賃銀の改善なくして労働時間のみ延長された場合特に一人当り生産額が低下して居ると云ふ事実も見逃してはならぬ、或る場合之は労働強化のため反対の結果を生ずることもあるが、独乙の場合には労働者の体力の粗悪化が労働強化のために生じて居る。且つ、高給の熟練工の能率すら最近には低落をみて居る。

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

ヒットラー政権最初の二年間は、政府が人為的に経済回復を促進した為め、生産力が異常に低下した事実も否めない。即ち、多数の未熟練工が就業させられ、官僚組織の絶対権力で経済上の浪費も夥しかったであらう。一九三四年から三五年には此の生産力低下も幾分緩和した。

その後独乙は、経済自給策の必要から、羊毛、護謨、石油等重要原料の代用品生産に乗出したが、之等代用品の製造は殆んど常に普通品の場合よりも労働力を余計に要して居る。同時に、鉄鉱その他の鉱産物の増産も行はれたが、之は経済的に非能率的で無駄と見ねばならぬような跛行を強ゐて居る

生産力低下は単に前述の事情のみからではない。代用品原料の工業はそのため生産過程を妨げられた。最近発明された代用品の大部分は本物よりも実質が劣って居た。一例をあげれば、織維工場の糸は一九三二年前よりも切れ易く、また金属工場でも盛んに無駄が出て居る。之と同時に、非生産目的に要する人間、即ち事務量などが官僚主義のため非常に増加した。日用品の産額は戦争工業のために妨げられ、ユダヤ人の財産破壊

13, 10, 10,000—オカモトヤ印

れ生産力に悪影響を與へた。その他に原因は未だ種々あげられる。實際には生産力の低落は前記の表に示されたよりも甚しいであらう。また時日の経るに従って表面化する悪影響もあらう。例へば、技術的研究のレベルなどはさうであり、また最近使はれ始めたばかりの新代用品の如きも、恐らく悪影響を表はしてくるであらう。

同時に重要な事實は、全体としての獨乙工業の生産力低下の一般的原因があるが、之は前記の如き統計には現はれて来ない。その原因とは、例へば、獨乙では巨額な費用が道路や住宅の建設に投ぜられ、今その事業を継續できなくなって、既存は軍需工業に忙殺されて、之等建物や道路は未完成のまゝ、風雨に曝されて居る。

近く生産力が回復するといふ如き徴候は全く無く、獨乙鉱山や鉄道の報告によれば、生産力減退は依然續いて居るらしい。未だ労働力予備が相当に大きかった数年前には、生産力の低落も餘り深刻に考へる必要もなかった。生産力が減退すれば労働力で補はれたからである。然し、今日ではそれが出来ないから、總工業生産力は必ずや近き将来に

13, 10, 10,000—オカモトヤ印

減少して行くであらう、

従って、現在の経済政策を根本的に建直さぬ限りは、平和が保たれるとしても、今日の独乙工業のブームは近き将来に破裂するの已むなきに至るであらうが、戦争が賭けられるとしたら独ての既に低落して居る工業生産力が戦争力の最も致命的な缺陥となるであらう、

國政研究會

13, 10, 10,000–オカモト印

三、独乙の物資割当制

エコノミスト九月二日

先週独乙では國民に対する物資割当制を開始した。此の割当制は主要食料品のみではなく、衣服、靴、皮革及石鹸にまで及んで居る。現在の処、主要食料品の給與額は八月廿八日附デーリー・テレグラフ紙及モーニング・ポスト誌に出て居る如く、第一次世界大戦末期よりも比較的に多い。然し、同じく大戦末期一九一八年の英國に於ける状態とを比較してみると、或るものは幾分多いも、大体に著しく窮屈である。次の表は一九一八年一月ハンブルグ市で実施されて居た一人当り一週間の割当量と今回の割当量とを比較したもので、更に一九一八年英国で実施された割当量とも比較される。

	肉類	脂肪類	砂糖	ジャム	茶	パン	馬鈴薯	石鹸	珈琲代用品	ミルク
一九一八年ハンブルグ	九、〇オンス	二、五〇オンス	五、三〇オンス	……	……	四、三七五封度	七、一二五封度	……	……	……
一九三九年独乙	二五、〇	一五、〇〇	一〇、〇〇	四、〇〇オンス	〇、七五オンス(代用品)	割当制ナシ	割当制ナシ	一、〇〇オンス	二、〇〇オンス	二、五パイント
一九一八年英國	三二、〇	一二、〇〇	八、〇〇	四、〇〇	二、〇〇	*註 六、〇〇〇	*註 四、〇〇〇	割当制ナシ	……	割当制ナシ

13, 10, 10,000–オカモトヤ印

＊註　割当制は実施されなかったが、消費量を推計せるもの

パン、馬鈴薯その他蔬菜類については、独乙は未だ割当制を実施して居ないが、茶と珈琲は実際に市場に姿をみせなくなり、割当給與されるものは代用品ばかりである。

13, 10, 10,000–オカモトヤ印

四、独乙の石炭難　エコノミスト八月十二日

ゲーリング元帥が先週独乙石炭生産計画に対する特別な権限を附與された事実は、独乙石炭業の直面せる危機が更に増大したことを物語って居る。豊富な石炭供給を確保することが、全独乙産業計画、特に戦時物資を自給せんとする計画の中心問題であった。

ヘルマン、ゲーリング工場は鉄鋼四百万瓲の生産能力を計画されて居り、非常に莫大な石炭消費量増加を来たすであらう。特に此等工場は低度鉱石を使用して居るから余計に石炭を消費する。その他、合成石油、護謨、油脂などを製造する諸工場ハ直接間接に大量の石炭を消費する。また多くの発電所が新たに計画され建設中である。運輸事業も船舶業も石炭消費を増加する。

全産業計画に影響なくして、節約し得る唯一の石炭消費は家庭消費であり、ルール炭（独乙全生産量の三分の二）を家庭消費に向ける量が既に一割八分弱に低下されて居る。石炭生産増加の必要量は二千万瓲乃至五千万瓲、即ち（褐炭を除いて）現在の石炭生産量の一割乃至二割五分と見積られて居る。然し、斯る大量増産の必要にも拘らず、出炭増加の不可能が現実

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

化して居る。一九三八年は前年に比して僅か二百万瓲足らずの増加であり、一九三九年前半の大増加は殆んど墺太利が統計に加へられた為である。最も重要なルール炭すらが僅か卅四万六千瓲の増産にしか過ぎない。

此の状態は、坑夫一人当り採掘量が減少した為で、その最高記録は一九三六年一、七二瓲だつたのに、一九三九年第一四半期には一、五五四瓲に落ちた。そのため今春四月一日労働時間を八時間四十五分に延長されたが、出炭量は若干増加せるのみで未だ一九三六年の水準には達せず、然かも更に他の困難な事情が生じた。即ち、炭山の労働力が西部国境方面の要塞工事に移動されたり、軍隊に引抜かれたりして極度の労働力不足に陥つた。労働時間の延長は此の労働力放散傾向に拍車をかける結果となり、遂には坑夫は許可なくして転業するを得ざる旨の法律が六月一日実施さるるに至つた。此がまた重大な不安を醸して出炭量は更に減少する始末で、結局今日ゲーリング元帥に石炭生産計画に対する特別権限を附与して、坑夫の生活改善、労働力供給の増加及石炭生産計画合理化の促進を強力な権限によつて実施することになつたのである。

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

然し、労働力供給が假令増加したとて果して出炭量増加に効果ありやは疑問である。実際には、ルール炭田が出炭量の最高限度に到達してしまったのである。既に石炭採掘は全部機械化されて居り、同地方大炭田中には坑夫数を増加してみたが出炭量は減少して居るとの報告もある位で、出炭増加の唯一の途は新礦脈を発見するより外にはない。然し、此はルールでは容易なことではなく、然かも会社側は今日資本供給が不安で利潤低下をみて居る際とて、巨額の支出を新たにする熱意をもって居ない。

13, 10, 10,000–オカモトヤ印

五、独乙の食糧供給問題

エコノミスト誌九月十六日

独乙軍隊が波蘭に進撃する数日前、慎重に準備されて居た食糧品切符割当制度が初めて実施された。此の割当を現在の消費量と比較すると、次の表の如く、独乙の食糧供給の弱体性が明らかに判る。

	一人当り割当量（一年間瓩）	一九三五－三八年 一人当り実際消費量（一年間瓩）	同消費量に対する割当量の%
脂肪類	二二、二	二六、〇五	八五、三
ミルク	七五、六	一一二、〇〇	六七、五
肉	四〇、〇	四五、四五	八八、〇
砂糖	一四、五六	二三、一	六三、〇
珈琲及その代用品	三、二八	四、四	七四、四

註、六歳以下の児童、姙婦又は哺育中の婦人、重工業労働者には、脂肪、ミルク、肉が余計割当られて居るが、その分もこゝには含んで居る。

麺麭、小麦粉及馬鈴薯は未だ割当制になって居ないが、先づ重要食糧品が割当制

13, 10, 10,000―オカモトヤ印

となつたもので、その割当切符には、当局が期待して居る以上に戦争が永びく場合更に制限が強化される旨の記載がある。

一國の戦時食糧問題を論ずるには、知ることの出来ない種々な計数上の根拠が稀薄なため、非常に困難な仕事となる。例へば、予期できない生産額の増減とか、農産物の豊凶などがある。また何百万の男子を軍隊と軍需工業に吸引した為に国内産業におよぼす重大影響も、外部から推計するが難しい。また封鎖国が封鎖を破つて輸入する場合も考慮せねばならぬ。最後に、その国のストックが幾何あるかも外部からは判らない。本論では、出来るだけ斯る事柄を充分に考慮に入れておいた。

穀類

パン用の穀類に関する限り、独では一九一四年当時よりも準備が出来て居る。その他の飼料用穀物は全く外國の供給に依存せねばならない。一九三五―三八年の平均一ケ年の供給量は大体に次の如くである。

13, 10, 10,000–オカモトヤ印

		大独乙の全供給量（千瓲）	全供給量のうち輸入量の%
パン用穀類	小麦	七、五二一	一二、〇
	ライ麦	九、九八三	三、五
その他飼料用穀類	大麦（雑穀を含む）	六、三六三	二、八
	燕麦	七、七八四	一、五
	玉蜀黍	二、〇二八	七三、六

従って、玉蜀黍を除けば自給自足は大体に困難ではない。且つ、一九三七年及一九三八年の異常な輸入増加と昨年の大豊作により、政府は一九三九年八月一日までの十二ケ月間に三百卅万瓲から八百六十万瓲に達したと云はれる穀類の大ストックを作ることが出来た。本年の作柄は良好だが、収穫時の大降雨のため品質は貧弱だと信ぜられる。

独乙は隣接国から穀類の供給を受けることが出来る。封鎖された独乙が接近できる諸国は大体三種類に分類できる。A類は和蘭、白耳義、及スカンヂナビア諸国であるが、之等諸国は独乙以外

13, 10, 10,000―オカモトヤ印

の諸国とも交易を續けねばならぬので、対独輸出を平時よりも増加することは大体に不可能に近い。B類はベルチック諸国で、之等諸国は戦争のため英国との通商関係が切断されて独乙の重圧下にある。之等諸国からの輸出は、独乙の支払能力の困難が障碍にはなるが、独乙に対して増加するであらう。波蘭も、独乙軍が侵入した地方の回復を見れば、大体に此のB類に属する。

C類は匈牙利、ユーゴースラビヤ、羅馬尼、ブルガリア等の東南欧州諸国で、之等諸国に対する独乙と同盟国との経済関係は大体に同等で、現在の処、之等諸国が独乙への輸出を拒絶するとか、反対に独乙へのみ輸出するとか其の中立性を害する如き行為に出るとは考へられない。然し、供給量を確保せんとする独乙の圧力に譲歩を余儀なくせらるゝ程度は国によって自然に異るのは当然である。

露国と伊太利とは此の分類とは別である。露国の場合、独乙への供給方法に重大な輸送上の困難がある。(ナチ独乙の要する物資とソ聯の資源の項を参照) 伊太利は、野菜類(一九三五—三八年の平均年独乙野菜類輸入量の四八%は伊太利からである) 果物(三三%) 米(三五%六)

13, 10, 10,000–オカモトヤ印

を除いては、独乙へ大したものを輸出して居ない。
独乙が隣接國から受け得る穀類供給は大体次の表の通りである。此の數字は独乙が（一九三四—三七年の平均年（此の期間は一九三四—三七年の平均年よりも独乙に有利である）に諸國から實際に購入した量で、括弧内の數字はB類、C類、及、露國の全輸出量である。

	対独乙輸入量	A類（和蘭、白耳義、スカンヂナビア）	B類（バルチック諸國）	C類（バルカン諸國）	露國
小麦	九〇六（千瓲）	一五、二（千瓲）	—（—）（千瓲）	一八七、〇（千瓲）（一、一七四）	二、七（千瓲）（四五九）
ライ麦	三三二	一八、二	一、四（一五）	二〇、〇（一四五）	—（一一三）
大麦	一七三	四、一	—	四五、七（三五〇）	九、五（二七四）
燕麦	一一八	八、六	〇、二（—）	一、一（一八）	一九、〇（八九）
玉蜀黍	一、五〇〇	—	—（—）	二〇四、〇（一、二二六）	—（三九）

独乙の輸入必要量を大体に満足するには、バルカン諸國の全輸出量を以てすればよい。その場合にも、燕麦と玉蜀黍は不足である。露國の穀類は、黒海諸港から船積される關係上、独乙には餘り利用

13, 10, 10,000–オカモトヤ印

できない。波蘭は平常年なれば独乙の需要を満すに充分なライ麦と大麦とを輸出できるが、戦火のため荒廃した今日それは不可能である。量から云へば、独乙のパン用穀類の供給は向ふ二ケ年間充分だらうと見られる。然し、其他飼料用穀類は一九四〇年秋には非常な不足を告げるであらうし、其後に至ればパン用穀類も次第に窮屈になる譯で、悪天候又は労働力不足のため国内産額が激減することあらんか、独乙の困難は極度に大きくなる。

食用脂肪

独乙の食用脂肪の供給は実に四五%まで輸入に依存して居るので、ゲーリングの謂ゆる「武器とバターの交換」も、結局はこの食糧供給の弱体性を根本的に暴露するに至った。次の表は一九三五―三八年の一ケ年平均供給量の内訳を示したもので、此の點が明らかに結論できる。（単位千瓲）

	全供給量（旧ライヒ）	輸入量	全供給量のうち輸入量の%
バター	五七四	八一	一四、一

13, 10, 10,000-オカモト印

豚脂(ラード)及牛脂(タロー)	五七六	四〇	七、〇
植物性油	六三五	六三〇（輸入せる搾油用種子）	九五、〇
鯨油	一八七	一五六	八三、五
食用脂肪全供給量	一、九七二	八八〇	四四、七

若し、独乙が食用脂肪又はその原料を輸入しないで我慢するとせば、約五〇%の消費制限を行はねばならぬ。その上に、植物性油を搾った副産物とその油粕の供給が一ケ年約百万瓲の減少を予想せねばならず、此の重要な飼料の不足は次いで肉類及酪乳品生産に影響を及ぼすこと明らかである。墺太利とチエッコスロバキヤの合併も、大独乙にとっては、食用脂肪の供給を増加することが出来なかった。墺太利からのバター及ミルクの輸出は極めて小量であるし、一九三四―三七年のチエッコスロバキヤ国内供給量の四〇%五は直接輸入品か、又は輸入原料品からの加工品であった。

独乙の食用脂肪供給が戦時どの程度まで維持できるか、此に対する答は次に得られ

13, 10, 10,000―オカモト十印

るであらう。即ち、次の表は其の答を用意したもので、食用脂肪及その原料の大独乙輸入量と前記三種の国家群及露国から独乙への輸出量を比較したもので、括弧内の数字は食用脂肪輸出国の全輸出量である（一九三四－三七年の平均一ヶ年、単位千瓲）

	大独乙輸入量	独乙へA種国家群輸出量	独乙へB種国家群輸出量	独乙へC種国家群輸出量	独乙へ露国輸出量
搾油用種子	一、七〇九	一、六	〇、三（一八、六）	五四、〇（二〇〇、六）	〇、五（三九、〇）
鯨油	一五六	一三九、〇	—	—	—
バター	八〇	五四、九	一七、五（四一、三）	一、八（二、〇）	一、五（二六、〇）
豚脂及牛脂	五九	一二、〇	〇、三（—）	一四、五（二五、二）	—（—）

熱帯地方産の搾油用種子は封鎖のため独乙に届かぬであらう。B種及C種国家群と露国の全輸出量が独乙に向けられるとしても、独乙の搾油用種子の輸入必要量の七分一ぐらゐのものである。鯨油は大体諸国から供給されて居るが、不足を補ふ程に輸入を増加することは不可能である。従来独乙は消費を極度に制限して漸くに飼料供給のバランスを得て居るが、将来輸入飼料が今迄

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

通り入手出来なくなれば、その影響は畜産に及んでバター、豚脂、牛脂の生産が減ずることは当然である。一九三八年秋独乙官憲の発表によれば食用脂肪類の総ストックは四十六万二千瓲、即ち平均年供給量の二三パーセントとのことであつた。現在のストックは更に増加しては居らうが、食用脂肪の供給は独乙食糧問題の最弱点である。

純食料品。

肉類、鶏卵、魚類、蔬菜及果物等純食料品を独乙が輸入する量は、食用脂肪類ほど大きくはないが、輸入中絶となれば国民の苦しみは深刻であらう。次の表は一九三五―三八年の四ケ年平均輸入量と旧ライヒの全供給量を示したものである。（単位千瓲）

	全供給量	輸入量	全供給量のうち輸入量の%
肉類	三、六二五	註* 七三四	二〇、二
魚類	八四四	二三五	二七、九
蔬菜類	三、四七三	二七三	七、九

13, 10, 10,000–オカモトヤ印

果物	二、四二六	八五〇	三五・一
鶏卵	八、一二五 百万個	一、四五二 百万個	一七、九

註* 輸入家畜を屠殺せるものをも含む.

残念ながら、伊太利及チエッコスロバキヤの詳細な數字が引用出來ぬが、伊太利は從來比較的多量の肉類及鶏卵を輸入して居たものである。一九三七年独乙國内に猛烈に傳播した家畜傳染病が漸く防止されて、一九三七－三八年間の家畜減少が幾分回復したので、肉類の國内供給は恐らく一九三五－三八年の水準を保てるものと考へられる。旧ライヒの過去三ケ年の家畜統計は次の如くである。（單位千）

	一九三六年十二月	一九三七年十二月	一九三八年十二月
豚	二五、八九二	二三、八四七	註* 二三、四八〇
牛	二〇、〇八八	二〇、五〇四	一九、九九二
羊	四、三四一	四、六九二	四、八〇九

國政研究會

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

家禽	九七、〇三六	九三、二六一	九七、一三〇

註＊ 一九三九年六月二二、四八〇、〇〇〇頭で前年六月二〇、八〇〇、〇〇〇頭である。

独乙の食糧割当制度は、現在の処、他の食料品より肉類が比較的確実に供給されると云ふ假定に基いて居ることは明らかである。然し、家畜は屠殺されて行くし、飼料穀物及油粕の供給は減少するし、一方中立国からの輸入で不足を補ふことも出来ないとすれば、戦争が永びくにつれて、封鎖の影響は肉類の供給に甚だしい影響をおよぼすことは当然である。

独乙が純食料品の輸入を増加せねばならぬ見込は次の表で明らかである。（単位千瓲）

	全供給量（推計）	独乙へA種国家輸出量	独乙へB種国家輸出量	独乙へC種国家輸出量	独乙へ露国輸出量
肉類	註＊二〇〇	二〇、九	一、三（二〇、二）	三四、七（三七、六）	―（一、九）
魚類	二三〇	五六、七	―（―）	―（―）	〇、一（二一、三）
蔬菜類	三〇〇	九〇、〇	―（―）	一七、五（―）	―（六三、四）
果物	九〇〇	二一、四	二、四（―）	九二、九（一六七、三）	〇、八（―）

國政研究會

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

鶏卵	九〇 百万個	四四、九 百万個	四、三 (五、一) 百万個	一九、一 (四一、〇) 百万個	〇、一 (〇、三) 百万個

註* 屠殺された貯蔵肉類のみ

此の表は穀類、食用脂肪類と同様に一九三四－三七年の平均一ケ年の大独乙の全供給量と三種の同家禽及露口から独乙への輸出量で括弧内の数字は輸出国の全輸出量である。

独乙の漁獲量は、重要漁業根拠地を奪はれて、相当の減少を来さんとして居り、之に代る供給量もない。蔬菜類は大体自給自足が出来、根菜類－馬鈴薯、火焔菜、マンゴルト、蕪菁－は完全に自給自足である。根菜類が不足になるのは、不作とか労働力の変動とか領土喪失の場合のみである。

独乙の果物輸入量は、全供給量の三分の一以上に達するが、極度の自制を加へて輸入せずにすますことも出来よう。バルカン諸国から果物又鶏卵の供給を増加することもできるが、大規模な増加は望み得ない。

戦争の重圧下に、急激な経済的悪化が生ぜんとして居る。然し、独乙が欧洲中立諸国から従来通り重要食糧品の輸入を続けることが出来ると仮定してみても、飼料と食用脂肪の不足を救ふことが

13, 10, 10,000–オカモト印

不可能なことは前述の通りである。此等諸國は旧独乙ライヒに対して一九三五－三八年に、玉蜀黍の全輸入量の一八％一と搾油用種子の全輸入量の三％九五を供給したのみである。ナチが夢想する如く、假令バルチック諸國、バルカン諸國及露國の全輸出量を独乙に向けることが出来たとしても、食用脂肪は未だ著しく不足し、純食料品は満足と云ふまでには至らない。独乙は戰時食糧品の輸入を確保するためには、完成品の輸出を盛んにせねばならない。

最後に、独乙が嚴重に砂糖の割当制を勵行して居るのは、之だけは平時自給自足の域にあったからである。實際独乙では砂糖の輸出國であり、ボヘミヤ及モラビヤの合併で其の輸入能力は一層増加して居る。独乙國民消費三七％節減と共に、チエッコスロバキヤの餘剰を合はせると、大独乙の砂糖は グリセリン製造に 約七十五万瓲を振り向けることが出来る。

独乙では穀倉を一杯にして戰爭に掛って、割当制度を直ちに強めるのも避けた。然し、食用脂肪とパン以外の食料品とでは、制限のベルトは早晩固くせざるを得ないであらう。

13, 10, 10,000–オカモト印

六、ナチ独乙の要する物資とソ聯の資源、　九月二日　エコノミスト誌

人的資源並に食料及原料品の一大保持國としての露國の幻が、独乙首腦部の頭に常に浮んで居て之に誘惑されて居た、単に表面的に考へると、蘇独不侵略條約はソ聯軍隊を中立化したのみならず、多年独乙が熱望して居た宝庫の扉を開いたものと云へる、然し、之は単なる皮相観察である、既に日本其他の諸國に於て此の條約へ政治的反動が生じて居り、此のことによつても此の條約は両刃の剣であつた、露國資源への接近による独乙の経済的獲得は餘りに誇張されすぎるのであつた、

独乙の要求が実現する行手にあたつて四つの障碍がある、第一は政治的障害である、露國は、現在のソ聯たると嘗ての帝政たるとを問はず、独乙軍國主義に欧羅巴の覇権を握らせるのを歴史的に嫌つて居る、然し、此の傾向も、他の政治的原則同様に政治家が常軌を失した政策を採用する場合は直ちに否定される、例へば、独乙が結局に於て敗れるものなれば、長期消耗戦に充分な物資を独乙へ供給してやつた方が露國の利益だとも考へられる、——　[illegible]

13.8.20.000 ヲ納

そして、此の政策は西欧デモクラシー諸國にとって、戦争関係は、独乙と全的同盟を結ばれるよりも更に苦手であらう。従って、此の政治的障害は決して克服できないものではない。

第二の障害は財政である。露國物資は決して無償で供給されることはない。此の場合借款を以てすればよいが、借款は容易でない。事実先週の蘇独通商交渉でクレヂットを與へたのは独乙ではなく露國であった。そこで露國から独乙の物資購入は、独乙の支払能力範囲に限定されるが、独乙には金貨も外國貿易もないため、此の支払はまた物資で行はれねばならない。そして、露國が買ひたがる物資を輸出し得るだけ余分のない独乙は、戦争の負擔に悩み乍らも輸出のために製造する機械類だけを僅かに露國へ供給し得るのみである。現在ですら独乙の輸出は契約量を履行するに苦しんで居る経験から徴しても、露國へ供給し得る輸出額は大した額には上らないであらう。

第三には輸送上の障碍である。蘇独間の主要輸送路は三つある。第一はバルチック海で、独蘇両國が共に制海権を握っては居るが、露領の海面は一年の大半が凍結

し、且つ、その積出港たるレニングラードが原料品産地から非常に遠距離にある。第二は黒海ダニューヴ河水路であるが、これは羅馬尼、ユーゴースラビヤ、匈牙利其他のダーダネル海峡を通じて黒海に利害をもつ諸國のため邪魔される。第三は鉄道だが、此は波蘭を横切らねばならない。假令波蘭の防害が一掃されたとしても問題は解決した訳でなく、大体露國輸送道路は國内貿易のため発達したものであって輸出路などは考へて居らず、地圖を一見しても判る通り原料品の主要産地から独乙への距離は直接的でなく非常に莫大である。鉄道設備の関する限りでは、一九二九―三七年間の非常な進歩にも拘らず鉄道路線延長が貨車数と同一歩調を保って居ない。鉄道延長は七万七千粁から八万五千粁に増加したのみだが、貨車数は四十五万五千五百輛から六十四万五千九百輛に増し其の積載能力は八百七十万瓲から一千五百七十万瓲に飛躍した。此の貨車のうち十分の一だけが独乙輸出物資の輸送に独占され、各貨車が一ヶ月に一度運轉されるとしても（蘇独間の距離を考へると此の数字は可成り楽観的な推計である）一年間の全輸送能力は独乙が平時輸入する鉄鑛のみにも及ばないのである。

13. 8. 20.000 オ納

兎に角、露國では、運行網の拡張を行って居るが、鉄道は非常な繁忙状態にあり、第三次五ケ年計画にも鉄道への資本支出が莫大に計上されて居る。こんな状態であるから露國鉄道は独乙輸出のための陸上を通ずるとしても、バルチック海又は黒海諸港を通じるとしても余り多くの貨車を提供することが殆んど不可能である。且つ蘇独両國鉄道のゲーヂが異って居るから、假令露國鉄道が前述の困難を克服したとしても、独乙の鉄道設備が役立たない。こうした困難は露國鉄道が更に何年もかかって莫大な経費を投じて改良されたのち始めて解決される事柄である。

第四の障害は、交換さるべき物資の量で、此の問題は特に詳細に考慮されねばならない。最近露國が原料品生産に急速な発展を遂げたことは疑ない処で、また其の潜在的生産力は莫大なものである。例へば石炭産額は一九二九年四千百万瓲から一九三八年一億三千三百万瓲に増加し、また同期原油産額は一千四百五十万瓲から二千九百万瓲に上って居り、同様に鉄鉱、銑鉄、粗鋼及び非鉄金属の産額増加も著しいものである。鉄鉱産額は一九二九年四百卅

万瓲から一九三八年一千五百万瓲に達し、粗鋼は四百九十万瓲から一千八百廿万瓲に増加した、斯くて産業生産額は四倍に達し、農業生産額は此より緩慢な率ではあるが矢張り増加して居る、然し、此の堂々たる統計数字を一見したのみで、戦時独乙が露國から供給を受けて其の経済的缺陥を克服できると考へるのは早計である。露國の[illegible]は外國資源から出来るだけ独立して、原料品及食料品生産と國内需要とを均衡にせんとするを國策として居る、従って、露國は小麦、脂肪、鉄鑛、マンガン鑛、石油、材木及其他雑貨の主要生産國であるのに、その輸出は必要な原料品及資本設備の輸入に対する支払額だけに止めて居るらしい、

露國は自國に充分なだけ食料品を漸く辛ふじて産出して居る程度で國民栄養程度はなほ比較的低度である。最近の露國政府の方針は輸出増加よりも寧しろ生活標準向上に努力を注いで居り、従って、穀物積出しは減小傾向にあるが毎年実際に輸出される量は収穫の豊凶により増減がある、露國の小麦平年作は約三千万瓲だが、一九三二－三七年の五ケ年間輸出量は廿三万六千瓲から九十二万瓲の間を動いて居た、独乙の輸入量も同様に増減がある、例へば一九三六年独乙では

13.8.20.000 オ納

正味一万二千瓲を実際に輸出して居るのに一九三七年には百廿七万八千五百瓲を輸入して居る。大麦については大体同じである。豊作の年は約八百万瓲の大麦産額があるが一九三三—三七年間の輸出は十万五千瓲から五十六万七千瓲の間で、独乙輸入額は五万八千瓲と五十五万二千瓲の間である。然し露國の小麦主要産地は南部にあるので積出しは黒海沿岸のオデッサから主として行はれて居り、従って此を大規模に陸上鉄路又はベルチック海を通じて輸送するように変更するとせば運輸組織に非常な緊張を加へねばならないだらう。小麦及大麦を別としても、露國はバター、油用種子、油糟の輸出國である。一九三七年独乙全輸入量と露國全輸出量は次の通りである。

	各國からの独乙輸入量	各國への露國輸出量（単位千瓲）
バター	八七	一五
油用種子	一、四七一	四一
油糟	一〇九	三八

従って露國が與へ得る援助の程度は極めて小程度のものである。

工業用原料の関する限りでは、マンガン、アスベスト、油、材木及棉花（これは爆薬製造に重要なもの）以外には露國に現在余分な産額はない。現在の鉄鉱輸出は極めて小額で、その貯蔵は戰時独乙の缺乏を救ふには輸送能力の現状では不可能な地方におかれて居る。銑鉄は更に範囲が少いが、鉄鉱と同様に独乙への輸出を一時に拡張することは不可能で結局露國はどちらも輸出し得る余力はない。

露國は従来マンガンを多量に産出し輸出して居たが、若し輸送力が充分なれば独乙の輸入要求を満たすことは容易であらう。一方露國は合金鉄鋼類や非鉄金属類が生産拡充にも拘らず缺乏して居る。

露國の石油は、自國の需要増加に追付くほどの産額すらもって居ないから、独乙が多量の石油を獲得し得ないだらう。露國は一九三二年約六百万噸の石油輸出を昨三八年には百十万噸に減小するの已むなきに至って居る。且つ、露國の石油輸出は黒海経由であるから、此を陸上を輸送するには、鉄道の輸送力不足に加へてオイルタンカー不足のため、全く不可能であらう。輸入石油への依存度を極力少くしようとする努力は續けられて居るが、平時ですらなほ年額約五百万噸の輸入

が独乙には必要であり、戦時には一層多くなるであらう。他方、独乙は材木だけはベルチック海を経由して露國から全需要量を確保できるであらう。

独乙が露國から原料品を輸入して資源不足を補ひ得る限度は極めて制限される。露國が厳正中立を保つ間は、独乙は木材の不足だけは入手でき、輸送力が充分なれば小麦、マンガン及其他少々のものも入手できるであらう、そして、露國の産業設備は大部分独乙から供給をうけたものだから、前記原料物資と交換に機械と恐らくは産業技術者の援助をも喜んで受入れるであらう。

然し、戦争が始って、露國が積極的に独乙を援助せんとする場合は、また事態が異って来る。然し、独乙にクレヂツトを與へねばならぬ余儀ない事情が発生せぬ限り、露國は自國の原料品及食料品消費を減ずる場合にのみ――即ち、自國の獨独で独乙の戦争力を抗充する場合にのみ、大規模な供給を独乙に行ひ得るに過ぎない。然し、その場合ですら両國間の貿易量は輸送能力不足のため制限される。結論すれば、露國が独乙の主な資源不足を補ふまでには相当長年月の準備が必要で、此の乱暴な新しき友邦に巨額なクレヂツトを與へた場合にのみ可能である

13.8.20.000 ォ納

七、独蘇貿易関係（エコノミスト誌八月五日、八月廿六日に依る）

新通商條約のため、日独両國間に交渉継續が傳へられて居た処、突如その協定成立が発表されたが、恐らく日米通商條約破棄に対する枢軸國の返答であらう。此の新協定は十月一日から効力を発生するが、未だ単なる輪廓的取極めに過ぎず、更に細目に亘る折衝が重ねらるものと思はれる。日独両國は世界大戦後條約締結を行ふに非常に遅れて、交渉が開始されたのが漸く一九二二年で、予備協定が始めて一九二六年に行はれ、現行通商條約は一九二八年締結されたものである。その間、独乙の化学薬品及光学器械は、日本の禁止的高率関税のため甚しい輸出困難に陥って居たが、結局独乙側が大豆油の関税を引下げて漸く最恵國約款に基づく通商條約が行はれたのであった。日独貿易は満洲國の介入によって、複雑化さるると同時に円滑化された。即ち、独乙は対日輸出超過國で、対満輸入超過國なので、横濱正金銀行を通じて、一種の三者清算が行はれるようになった。一九三八年独乙の日満両國に対する輸出は夫々九千三百万馬克及二千七百万馬克で、輸入は夫々二千五百万馬克及七千七百万馬

13.8.20.000 オ納

克であった。新協定は両方面の貿易進展を企図したもので、独乙は日本に相当額の輸出クレヂットを與へたと思はれるが、その金額は不明である。交渉は未だ完全に終った譯ではないから、実際に貿易額が直ちに飛躍的増加するものとは思はれない。

独蘇新通商條約の交渉がなほ行はれて居る。両國間の貿易は、ナチス政権以来急激に減退した。即ち、一九三二年独乙の対蘇輸出は七億六千三百万馬克に達し、その輸入は原料品三億三百万馬克及金銀二億四千七百万馬克であったのに、一九三八年には、輸出三千二百万馬克、輸入五千三百万馬克に激減して居る。此の独蘇貿易の萎縮は、単に政治的並にイデオロギー上の相違に原因するものではなく、両國が夫々計画を進めて居た経済政策の轉換のためであつた。蘇聯は最早大量生産加工品を以前ほど澤山に輸入しないでも済むまで國内産業が発展を遂げた。そして、今日では寧ろ高級専門機械、光学器械及化学工業品の如きものを要求して居るのである。然るに、独乙は再軍備計画を強行するため、経済界は準戦時経済の圧迫をうけ、且つ労働力と原料品は不足を生じて居り、蘇聯が要求するが如き工業完成品は、自らの

必要な生産を切詰めて辛ふじて供給し得る現状である。然かも、その價格は米國又英國に比して高價で、且つ註文から引渡まで少くとも九ヶ月乃至十ヶ月もかゝる始末である。その上に、蘇聯は今や必要ならば現金拂も出来るほど富んで居り、従つて、独乙のクレヂツトには容易には誘惑されない立場に居る。その反面、独乙が輸入せんとするものは主として原料品であり、その多くは今日独乙とよりも有利に他の諸國と自由に取引できる立場に居る。独乙は他の原料生産國と愈々政治的切迫状態に立至つたので、蘇聯との貿易復活を益々希望するに至つたのである。

独乙の対米貿易も悪化して、一九三七年その輸出額二億九百万馬克だつたのが一九三八年には一億四千九百万馬克にガタ落し、更にその輸入額を見ると、一九三七年二億八千二百万馬克が一九三八年四億五百万馬克に跳ね上つて、対米貿易のバランスは極度に受身となつて居る。

従つて、独乙は唯一の活路を蘇聯からの原料品確保に向けんと焦慮して居るのである。ベルリンとモスコーで同時に商議が行はれ、然かも其の主要役割が独乙側では産業家によつて行はれて居るのは注意すべきである。勿論、独乙外務省も参加しては居るが、單に政治協定又はクレヂツトに関する問題にのみ

13.8.20.000 オ納

交渉を制限して居るらしく見える。その交渉は最近重大困難に遭遇して、一時停頓状態の已むなきに至った。然るに今日独乙は数億馬克のクレヂットを与ふべき用意ありとの流説も伝へられて居る。此の数字は恐らく大袈裟であらう。一九三五年の二億馬克の輸出クレヂットを延長するか或ひは一種の回轉資金に変へられるかが結局成立の可能性ある処であらう。然し~~[illegible]~~一九三五年の対露クレヂットによる独~~[illegible]~~両側の輸出が予期の如く行はれず、その期間が~~[illegible]~~延期に延期を重ねられ、遂に一九三七年六月に至ったことを忘れてはならない。政治上の國交進展は別として、廣範囲な経済協定が成立するか否かは、独乙産業が対手國の欲する物資を競争的な安價で、且つ引渡しに遅滞なく供給できるか如何にかかって居るのである。

× × ×

独蘇間の通商並にクレヂット設定の協定が、数ヶ月の交渉停頓ののち、突如締結された。此等両國間の貿易額は、一九三〇年の水準の約十分の一に現在おちて居るから、当面の貿易額増加は比較的容易に出来よう。新協定は向ふ二ヶ年間の両國間の通商関係を規定して居る。予期の

如く、独乙は蘇聯に二億馬克のクレヂツトを與へた。此は實際には一九三五年のクレヂツトの更新に過ぎないのである。即ち、独乙産業が蘇聯の欲する物資を供給し得ないか或ひは供給するを好まなかった為か、また、その交易品の品質、引渡期日、引合價格などに支障があった為めか、一九三五年のクレヂツトは屢次の延期にも拘らず一九三七年六月までに僅か一億八千三百万馬克しか使用されて居なかったのである。

今回の協定で、蘇聯は独乙に対して向ふ二ケ年間に一億八千万馬克の物資（主に原料品、石油、小麦及木材）を引渡すことになって居る。

次頁の一九三七年及三八年独乙（旧ライヒ）蘇聯両國間主要貿易額を一見すれば、独蘇貿易の内容が理解されるが、特に独乙が蘇聯原料品に如何に依存せねばならぬかが判る。露國への独乙輸出品は主として完成品である。一九三五年のクレヂツトにより露國は工作機械八千七百万馬克、薬品セメント及食料品等の工場用機械二千百万馬克、光学及科学器械一千五百万馬克、鑛山用機械一千四百万馬克、電気機械九百万馬克、動力機械八百万馬克、印刷及織機六百万馬克、船舶用品二百五十万馬克、鐵道材料百万馬克を独乙へ注文して居る。

13.8.20.000 オ納

独蘇間主要貿易品（単位百万馬克）

蘇聯から独乙へ	一九三七年	一九三八年	独乙から蘇聯へ	一九三七年	一九三八年
木材	一三、七	一八、六	機械類	七二、三	一一、一
石油及精製品	一四、九	四、八	及工作機械	四七、八	七、四
煙草	四、五	四、五	科学及光学器械	六、七	四、九
燐酸鉱	一、五六	三、一五	鉄線	二、二	三、一
マンガン鉱	二、九	二、九	化学品染料等	六、二	三、三
亜麻	六、七	二、三	合金鉄	三、五	二、一
食料品	一、五	一、九	鉄管	二、七	一、三
植物性油	……	一、三			
鉱山用坑木	〇、四	一、一			

13. 8. 20.000 ヲ納

露國産業は大抵の大量生産は出来るようになつたので、その輸入に求むる処は高價な特別機械及設備が主で、また独ではその輸出代金をそのまゝ輸入のための支拂手段に用ひられなくなつたので、露國側の要求に應ずるには極度の努力が必要である。然し、通商協定、殊に今日の如き情勢の下に締結された協定は根本的な重要性があり、殊に独蘇不可侵條約に基づいて居ることを考へれば、更にその重要性が大きい。露國と通商関係を有する國、殊に東欧諸國の利害は此の協定で影響されて居る。独では第三帝国の拡張政策のため原料品生産國との関係を非常に悪化した。そこで、その武装計画を更に續けよに必要な原料品及食料品の供給を確保するには、どうしても露國との諒解を求めねばならなくなつた。現在の急激な需要状態で原料品の國内ストックが永く續くとも、土地が豊産を永く續くとも幻想をもち得ないので、ヒットラーはどうしても其の供給を確保せねばならない、露國は独の立場を非常に有利にして大きな供給基地となるであらう。若しベルリンで希望されて居る通りに事情が発展するなれば、独では西からの圧迫に全く無関心たり得るであらう。且つ、独の政治的並に貿易上の競争者としての西欧諸國は東欧の地から全く姿を消すであらう。此のことは、露國輸出入の地理的分布

から明らかである。次表の数字は伯林公定換算率で百万ライヒス馬克に換算してある。

	露國からの輸入		露國への輸出	
	一九三七年	一九三八年	一九三七年	一九三八年
独乙（旧ライヒ）	六五・一	四七・四	一一七・四	三一・八
大独乙	—	五二・八	—	三三・六
英國	三五七・九	二三八・四	二四〇・〇	二一二・五
及再輸出	—	—	二〇二・一	一三四・〇
米國	七六・九	六〇・一	一〇七・二	一七四・二
白耳義及ルクセンブルグ	六二・九	六六・四	三七・八	三七・二
和蘭	五五・四	四三・五	三〇・三	三二・〇
佛蘭西	七二・六	四四・五	一一・三	一二・〇
瑞西	七・八	一六・五	四・二	五・八

13.8.20.000 オ納

近年の蘇聯貿易は米國、英國、和蘭の順であるが、新協定の下では再び独乙が第一位になるであらう。蘇聯産業は独乙製の機械で大部分設備されて居り、最近新しく取代へられねばならぬから、斯る発展は一層期待される。英國又は米国製の機械を蘇聯が購入せんとしても、高價なばかりで他に便宜がない。一九二六年の三億馬克のクレヂットと一九三一年及び三二年の謂ゆるピアタコフ協定と一九三五年の二億馬克のクレヂットのお蔭で、露國市場の独乙貿易額は一九三二年露國全輸入の四七%と全輸出の二四%に高まった。こうした独蘇貿易発展が以前にも行はれたのだから、今度も再び行はれ得る可能性はある。

八、蘇聯の国勢調査

（エコノミスト誌九月十六日）

一九三八年実施された蘇聯の国勢調査は結局発表されなかつた。国勢調査が完了した直後、多数の国勢調査委員会の人々が、スパイとかサボタージユとかの名目で銃殺又は追放された。少くとも此の累擧の一部の理由として擧げられる処は、ボルシエビクの立場から面白くない信仰とか教育程度に関する多数の報告が集つたからである。それは兎も角、一九三九年国勢調査は全部遣り直された。その第一次発表が去る八月行はれた。

全蘇聯の総人口は一億七千四十六万七千百八十六人で、前回の一九二六年国勢調査よりも約二千三百万人の増加である。第一表は両度の国勢調査に基いて、全蘇聯の総人口の男女別比較と都市農村別比較を行つたものである。此の表で最も注目すべき事柄で、且つ今日の蘇聯にとつて最も重要な事柄は、都市人口が新たに三千万人増加したことである。

前身が農民である此等三千万人の人々は、一九二八年第一次五ヶ年計画開始以来、蘇聯が必要

13, 10, 10,000–オカモトヤ印

とした工場鑛山その他産業に従事し産業中心地建設のために、農村を離れたものである。一般に彼等は産業労働力募集運動に呼應えて都會に集ったもので、その他、農業集中政策実施後農村全般が陥った生活困難から逃れて来たものもあり、或ひは、腕に職を覚えて労働者となり又は自由職業人となるため出て来たものもあり、又は組織者とか指導者として都會に出て来た人々も若干ある。

然し蘇聯の國民経済は未だ完成して居ない。曽っては自分達が消費するものは大部分自分達の手で作って居た三千万の男女が突然都會に集中して、賃銀労働者として得た現金を懐中に購買市場に殺到し、加工された食料を食ひ、工場生産された日用道具を使ひ、電燈やラヂオを要求し、更に最も著しいことは、衣服や靴の出来上ったものを買って生活するようになった。

蘇聯の軽工業は資本割当からみて、（重工業及運輸業に次いで）第二位又は第三位にあるが、此の突然な需要激増には應じ切れなかった。また現在とても應じ切れないので

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

ある。露國は今日でもなほ、懐中には金を唸らせて値段が高からうが何んでも買ひたがる飢えた購買者の國である。然るに、農民の都會集中の傾向は、なくなる処か、國家の確定的な計画に基いて一層拍車をかけられて居る。即ち、本年三月第十八回党大會席上、スターリンは毎年二百万の農民が、産業労働力補充の為の動員されねばならぬと訴えて居る。現在全蘇聯の農村に向って、此の二百万の農民が募集されて居るのだ。

最近十二年間、中央亜細亜の遠隔な地方及共和國の都市居住者（多論主として産業労働者である）の数と比率が急激に増加して居ることが、今回の国勢調査によって明らかである。例へば、ツルクメニアの都市居住者人口は一九三六年以来二〇三％増え、カザックスタンでは三二八％増えて居る。ツルクメニアの発電所計画、國営棉農場、紡織都市とか、カザックスタンの石炭、ニッケルその他の鑛山及工業計画とかは、此等遠隔地方の遊牧的な原始的な土着民から労働者の供給をうけて居る。

蘇聯には、人口百万以上の都市が二ある。即ち、モスコウは四百十三万七千十八人で、一九二六

13, 10, 10,000–オカモトヤ印

年の二倍で、レニングラードは一九二六年百六十九万六十五人に対して現人口三百十九万一千三百十四人である。次の都市までには非常な距りがあり、五十万台乃至九十万台の都市は、キエフ、ハルコフ、バクー、ゴルキー、オデッサ、タシケント、チフリス、ドン河沿ひのロストフとドニエプロペトロフスクの九個所である。此等九都市の大部分は一九二六年以来、人口は約二倍となった。人口十万乃至五十万の都市は七十個所あり、そのうちには一九二六年以来数十倍に達したものもあり、マグニトゴルスクやカラガンダの如く其の当時以後新たに建設された都市もある。

出生と死亡の関係及出生率について見ると非常に面白い。英国では出生が死亡を二一%、独乙では六二%、米国では三〇%、伊太利では三八%超過して居るが、蘇聯では実に一一五%も超過して居る。然るに、仏国では逆に数年来死亡が出生を超過して居る。第二表は蘇聯及その他諸国の都市に於ける実際出生数と出生率とを示したものである。

此の高出生率を説明するに、某蘇聯紙は、政府が国民の家庭に非常な注意と援助とを拂って居る結果だと主張して居る。事実、最近この方面に非常な進歩が見られ、

國政研究會

13, 10, 10,000—オカモト十印

母子保護、托児所その他育児機関に巨費が投ぜられて居る。その他、現存の子供七人以上を有する母親には奨励金が交附されるとか、父親の私生児扶助に関する法律が厳重に実施されて居る。尚ほ、同記事の筆者の意見によれば、高出生率に寄與する最も重要な原因は新堕胎防止法が公布され特に都市の如き密集生活地域で厳重に実施されて居ることで、また國民の大部分が比較的衛生に無智で避姙など知らぬためである。

家庭生活に関して興味ある事実は、一九三六年よりも一九三八年には、結婚件数も多いのに離婚件数が減少して居ることで、此は或る程度まで一九三七年以来離婚料が引上げられた為である。以前は、離婚料は高級タバコ一個の値段ぐらいの三留で済んだのに、今では第一回離婚料は五十留、第二回は百留、第三回は三百留といふ具合に累進的に課せられて居る。

モスコウ市の人口発展も興味が深い。大戦前には百四十八万一千人だったのに、一九一七年には大戦の刺戟で二百十六万五千人に増加したが、國内戦争三年間都市には非常

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

な食糧饑饉が未發して、モスコウ市人口は一九二〇年九十五万二千人に激減した。之が一九二六年になると、平和と秩序回復により二百万台を超え、其後十二年間産業化、集中化及自然増加等により現在結構四百万台を越えて居る。蘇聯では第二次五ケ年計画に際して百六十億三千万留の巨費を投じたが、住宅改善は少しも進んで居ない。其の上に、此の都市人口集中は非常に暗い半面をもつて居る。モスコウではその住宅は信ぜられぬ程密集して居る。部屋一つが問題となつて、モスコウ市民は結婚したり、離婚したり、殺人さえ行ふのである。

國政研究會

13, 10, 10,000–オカモト十印

第一表　蘇聯の人口

	男	女	總人口	都市人口	農村人口
一九二六年	七一、〇四三、三五二	七五、九八四、五六三	一四七、〇二七、九一五	二六、三一四、一一四	一二〇、七一三、八〇一
一九三九年	八一、六六四、九八一	八八、八〇二、二〇五	一七〇、四六七、一八六	五五、九〇九、九〇八	一一四、五五七、二七八
増減(＊)	一五%	一六%九	一五%五	一一二%五	＊五%一

第二表　都市人口

	年度	出生數(單位千人)	千人当り平均出生率
モスコウ	一九三八年	二七、二	二八、五
レニングラード	〃	八三、八	二七、四
キエフ	〃	二二、五	二七、四
ハルコフ	〃	二二、四	二七、七
バクー	〃	二六、九	三三、九

國政研究會

13, 10, 10,000─オカモトヤ印

ニューヨーク	一九三六年	九九、四	一三、五
ロンドン	〃	五六、三	一三、六
パリ	〃	三二、五	一一、五
ベルリン	〃	五九、五	一四、一
ローマ	〃	三四、〇	二一、七

13, 10, 10,000–オカモトヤ印

九、英帝國の武器庫としての加奈陀

エコノミスト 九月九日

大戰爭では、その決定的要員のうちでも、常に生産力が最も強く影響する。此の點に關して、英國は独乙より著しく優越的地位にあることを、「戰時經濟と戰後經濟」の項で既に指摘しておいた。然し、独乙に宣戰布告したのはブリテンのみではなく、英帝國である。從って、ブリテンの物的資源の優越性に加ふるに、自治領及植民地から絶えず援助が來ることを忘れてはならない。之等自治領及植民地のうちでも、加奈陀は英國の穀倉といふ傳統的な役割の外に、今日は英國の武器庫として役立つことになった。

加奈陀は空襲の危險から全く安全であり、各自治領植民地中最も英本國に近い位置にある。更に、加奈陀は自然資源が最も豊富で戰時に際して大いに利用され得るが、之の資源に基いて其の工業は既に大發展を遂げて戰爭産業建設の確實な基礎を築いて居る。

今日、加奈陀が斯る方面に大發展を遂げ得ることの徴候は、既に第一次世界大戰の記録をみれば明瞭である。即ち、當時加奈陀は五十万の兵士を募集して四十万餘の歐州派遣

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

軍を英空軍に參加した數千の飛行士と共に英本國のため送り出したが、此の軍隊の協力の背後に國內戰線にあつて戰時產業のため働いた人々の偉業も忘れてはならない。

食糧生產は增加されて、歐州へ續々と積み出されたが、之は忠實な加奈陀農民が極端な勞力不足に惱みながらも、休日を利用した市や町の人々に收穫を手傳はれて、懸命に努力した結果であり、食糧生產增加運動は、一九一四年三千三百万エーカーの農作面積を一九一八年には五四%增の五千百万エーカーに達せしめた。此の小麥その他の食糧生產增加は平時から行はれて居たのを擴張したものであるが、加奈陀には大戰前行はれて居なかつた事業を戰爭勃發と共に新たに起した點について見ると、更に顯著なものがある。

加奈陀國民軍相 Minister of Militia は帝國大戰局 Imperial War Office の指令によつて一九一四年九月軍需委員会 Shell Committee を任命して、本國への砲彈供給事業を組織化した。第一回發送は同年十二月に行はれたが、翌年五月末には加奈陀國內約四百工場が此の砲彈製造に從事して居た。次いで十一月には此の軍需委員会はその仕事を帝

國政研究會

13, 10, 10,000―オカモト印

國軍需院 Imperial Munitions Board に移され、之が本国の軍需者と連絡をとつて
軍需工業指導にあたつた。大戰に加奈陀が貢献した功績については一九一七年英帝國戰
時内閣が次の如く推稱して居る。
前年度加奈陀が英本国のため寄與した処は莫大なものである。最近六ヶ月間軍需省
の總支出の一五％は同國に負つて居る。例へば、同國は十八听砲彈から九、二吋砲彈ま
で殆んど全種類の砲彈を製造して居る。十八听砲彈の如きは最近六ヶ月間の砲彈全生産の
五五％が加奈陀で製造されたもので、之等の大部分は直接佛蘭西に送られて居る。また
四五吋砲彈の四二％、六吋砲彈の二七％、六〇听ＨＥ砲彈の二〇％、八吋砲彈の一五％　九、二
吋砲彈の一六％は加奈陀で製造された
加奈陀が英國野戰軍のため軍需品を供給した功績は次の数字で思ひ半ばに過ぎるであらう。
一九一四年は二万八千百六十四弗、一九一五年は五千七百二十一万三千六百八十八弗、一九一六年は二億九千
六百五十万五千二百五十七弗、一九一七年は三億八千八百二十一万三千五百五十三弗、一九一八年は二億六

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

千七十二万一千七百五十一弗を加奈陀政府は軍需品製造に支出して居る、之に加ふるに帝國軍需院の指令の下に、加奈陀工業の拡充が行はれて、七千万弗の造船契約が結ばれ、また二千九百台の飛行機が製作された、之は總べて、全く戦争準備がなく、國民の大部分を戦場に送り、然かも生産技術を新に習得せねばならぬ國で成就された大事業である、今日は、戦争を予想して居たし、加奈陀を英國の武器庫たらしめる戦争準備計画は行はれて居たのだ、実質的に、一九一四－一八年よりも加奈陀は其の使命を果す準備を完成して居る、

先づ加奈陀は有時に際し食糧供給の使命を果すであらう、之には一九一四年当時より一層有利な出発点に立って居る、即ち、若干ではあるが人口は増加し、農作面積は一九一八年極度に拡張された当時よりも約一千万エーカーを増加して居る、加奈陀はその特産物たる小麦を収穫高の八の1/10以上も輸出することが出来、その最高記録は一九二八年五億ブッシェルに達して居るが、今年は約四億ブッシェル見当である、

戦争力は著しく鉱山物に依存するが、第一次大戦以後加奈陀の鉱業は著しく拡張され

13, 10, 10,000-オカモト十印

て一九一七年鑛産額は二倍以上となった。現在加奈陀は、戦争に不可欠なニッケルを世界總産額の八七%も産出して居る。その他、銅は世界總産額の一一%、鉛は一一%、錫は九%を産出する。加奈陀の銑及鉄鋼業は第一次世界大戦に際して銑鉄年産百万瓲以上に辛ふじて達したが、今日は平時施設で楽に百五十万瓲を出して居る。飛行機工業は戦時急速に拡張できるよう計画されて、平時は単に国内需要に應ずるようになって居る。自然資源の調査開発が加奈陀では不断に行はれて居るが、第一次世界大戦後同国は英帝国の戦時兵站源として一大飛躍を遂げた。

一九三八年のミュンヘン危機に際して、英国政府は加奈陀政府の協力を得て、国防費負擔を増額し、以て軍需工業の拡充奨励に当りたい旨を洩らしたが、之は帝国の国防に寄與する為め加奈陀が経費を負擔するか否かによって註文を発したいと云ふことである。此の諒解に基いて、英国政府は加奈陀政府と協力して軍需工業拡充に乗出して、加奈陀国内の諸会社の機械設備を増設し、また武器製造に必要な設備輸換を諸工場に對して実施せしめた。最近、之等諸工場が

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

平時操業から軍需品製造に急速に轉換する計画の一端が漏らされた。

戦時飛行機工業に対する英國と加奈陀との協力は更に密接なものがある。之は地理的に加奈陀の位置を考へれば一目瞭然である。即ち、加奈陀は外國領土上空を通過することなしに本國に達し得る唯一の自治領である。また、戦場となる場所からは相当離れては居るが、加奈陀で製作された飛行機は燃料補給なしに英國までは自由に輸送できる。加奈陀の飛行機工業は、聯邦政府並に州政府の奨励と商業飛行の発達により、第一次世界大戦後急激な進歩を遂げたが、之には英米両國の支援もあり、尚ほ将来相当の拡張の余地が充分ある。一九三四年創立された商業飛行運輸並に工業協会 Commercial Air Transport and Manufacturer's Association は十六の飛行運輸会社と十五の飛行機工業会社と加奈陀飛行機工業と関係ある八の子会社とを包含して居る。

最近の計画によれば、加奈陀民間工場に爆撃機製作の大量長期契約が発せられたばかりでなく、英國から飛行士を送って加奈陀の飛行学校で訓練することになった。従来の

13, 10, 10,000–オカモト印

工場設備では不充分なので、加奈陀国内の九大工業會社が聯合して之等爆撃機製作のため二工場を建設中である。長距離爆撃機の第一回発註は約一億弗に達し、之を一九一八年帝国軍需院が飛行機製作のため加奈陀で使った一千四百万弗と比較すると莫大な相違である。之に加ふるに練習機の大量註文も発せられて居る。

加奈陀の各工場で之等飛行機の部分品が製作され、次いで中央工場に集められ完成されて、英国から送られた発動機を備付けられ、飛行機は大西洋を飛ぶと云ふ訳である。次に飛行士の訓練については、英国空軍の飛行士は先づキャンプボーデンの飛行学校で教育を受けるが、加奈陀国内にも多数の飛行学校が開設される予定である。此の二つの仕事は、加奈陀の飛行家や飛行機工業会社が既に成就した素晴しい記録を思へば、完全に成し遂げられること確実であらう。

加奈陀は最近石油生産にも新たな重要地位を獲得して来た。現在アルベータのターナーヴァレイに於ける石油産額が英帝国の石油資源として大いに寄与すると考へるのは

13, 10, 10,000–オカモト印

間違って居るが、現在の日産二万乃至三万バレルが最高産額だと結論するのも早合點すぎる。加奈陀政府の地理調査局の專門家の意見によれば、現在の主要産地たるターナー・ヴアレー以外に最近石油産地帯がアルベータに發見されたが、ターナー・ヴアレーの廿四哩幅の狭い帯状の産油地帯と異って實に十万平方哩と推計されて居る。更に大切なことは、此の産油地帯が帝國内のアルベータにあり、敵襲から完全に安全なることである。

世界大戦以後、加奈陀は鑛産の調査開發が行はれ、航空界全般のレベルが向上し、また産業全般が拡充されたることは前述の通りで、一九一四年当時より更に大切な英帝國の財産である。軍隊に兵士を送る以外に、加奈陀の此の物的資源の支援を益々大いに認識せねばならない。

13, 10, 10,000–オカモト印

一〇　加奈陀の戰爭準備　エコノミスト九月十六日

加奈陀小麥會議 Canadian Wheat Board の各代表がオツタワに召集されて、戰時対策の協議が行はれた。其の席上、議長マキヴァー Mc Iver は、昨年度産小麥は全部賣却済みで、現在新年度産小麥の豊富な手持ストックを有して居る旨を発表した。小麥會議は、加奈陀産小麥の全ストックを英國及同盟國のため優先的に使用せしめ、英佛両國政府の小麥聯合購入を委託されたものと一般に予想されて居る。また、加奈陀政府は、産金諸会社と諒解を遂げて産金を現在通りに維持することになつたと信ぜられる。

第一次世界大戰に際しては、多数の労働者を軍隊にとられ過ぎたので、鑛山労働者が不足し、鑛産物の産額が激減した。今次戰爭に際しては、対外的に潜在購買力たるべき國内生産額の減退は、國家の利益のため、決して生ぜしめてはならぬと考へられて居る。加奈陀弗(ドル)はスターリングと連繋して、今回も再び弱勢となつた。然し、現在の相場で、米國へ金の輸出を継續さへすれば、為替相場は維持されるであらう。最近数ケ月、多額の金が政府によつて加奈陀銀行の金庫

13, 10, 10,000–オカモトヤ印

に貯へられて居る、官辺の発表はないが、之等イーヤーマークされた金は約七億弗に達すると見られて居る、

政府は戦争勃発と共に一定の重要産業を統制するものと今日一般に認められて居る、加奈陀國内の多数工場は今、戦闘器材及軍需品の製造に従事して居り、英國政府から新たに多額の発註があった、

西部地方の小麦は好條件に恵まれて収穫中であり、多量の小麦が既に脱穀された、出来には種々な相違もあるが、各地産小麦の脱穀試験によると予想以上の好成績で、最近推計によると、本年度小麦収穫は四億四千九百万ブッシェルである、東部地方の農作物も平年作に達して、タバコ、林檎の如き小産額のものも豊産を約束されて居る、現在農民達は大部分の農産物の價格が下落して居ることに不満であるが、戦争は常に農産物價格の騰貴を齎らすものである、兎に角加奈陀は今秋英國へ大量の農産物を供給せねばならない、

夏季末の加奈陀事業界は一年前と全く同一レベルに立帰った、之は非常に満足すべき状態で

13, 10, 10,000-オカモト印

ある。東宝統計局発表によると、八月十九日に終る週間の一般経済指數 General Economic Index は一〇八、三で、昨年同期の一〇八、五よりも僅かに低いのみである。一九三九年前半期の事業調査 Business Survey によると、同期の実質事業量指數 Index of the Physical Volume of Business は一二六、二で、前年同期一一〇、一に比較して五、五%の増である。製造業生産指數 Index of Manufacturing Production は一二八、四で、前年同期の一二一、五に比較して六、二%の増である。最も悲観的な傾向は卸賣物價指數が八二、二から七三、四に低落して、一〇、七%の激落である。八月以来一般指數は動かなくなった。

	貨車積載	卸賣物價	銀行手形交換	一般指數
一九三九年八月五日に終る週間	七六、九	七二、三	九〇、七	一〇八、三
一九三九年八月十二日に終る週間	七六、七	七二、一	八九、七	一〇七、七
一九三九年八月十九日に終る週間	七六、九	七一、九	九四、七	一〇八、三
一九三八年八月廿六日に終る週間	七二、五	七五、五	九五、五	一〇八、五

13, 10, 10,000-オカモト十印

統計局の七月一日就業者報告によれば、報告工場俸給簿記載労働者百十二万六千二百十六人で、六月と比較すると二万六千百十八人即ち二、四%の増加で、一九二〇年以来毎六月の就業増加率よりも幾分高くなって居る。六月中の被失業救済者数は八十四万八千人で、前年六月に比較して四%の減である。

鉱山業の活況は著しい、銅、ニッケル及錫の七月中輸出額は夫々四六九、三五三（前年度六月四七二、一八四）一七三、七五七（一四五、七六五）三四〇、七三五（二七三、八〇六）ハンドレッドウェートである。アスベスト工業は全くブーム景気を謳歌して居り、七月中の輸出は四一、四五〇頓で、前年七月の殆んど三倍である。製造業方面では條件は種々異って居る。自動車製造業、衣服業及家具業には季節的増減があり、紡績業は操業拡張を行ひ、英國から盛んに註文を得て居る。製粉業は全く繁忙で、果物及蔬菜の罐詰工場は季節的活動の最高潮に達して居る。

13, 10, 10,000—オカモトヤ印

二、濠州の対外貿易

エコノミスト誌九月十六日

対外貿易は濠州経済に最大の重要性をもつ、曾つて、濠州の国内経済は輸出品価格及対外支払勘定のバランスの影響を非常に受け易かつた、即ち、輸出品価格が高く、預金が増加し当座貸越が減少し、また銀行取引が円滑に行つて産業活動が促進されると云ふ順序であつた。然し、最近の濠州は高級産業が発達し海外借が減少したので、外部影響を受けることが少くなつた。

その輸出額は、一九三六－三七年（財政年度）の十億六千三百万（濠州）磅から一九三七－三八年には十億五千八百万磅、一九三八－三九年には十億四千万磅に低落したにも拘らず、事業活動は相当の活況を呈して居る。

東部諸州に大被害を與へた旱魃は別として、輸出量は、鉛、肉類及一特に一小麦を除いては、充分に維持されて居る。輸出額の低落は、輸出量の減少ではなくして、全く輸出価格の激落によるもので、ニュー・サウス・ウェールス銀行調査の輸出価格指数（一九三四－三五年を

13, 10, 10,000–オカモトヤ印

一〇〇として）は一九三七―三八年には一一六、一九三八―三九年には九四に低落した。此の低落の主要原因は、小麦の平均價格が前年と比較して四〇%以上の下落をみた為めで、其他に羊毛も著しく下落し一九三七―三八年一封度につき十三片二だつたのが一九三八―三九年には十片五になつて居る。羊毛價格の下落は輸出量の増加で或る程補はれるが、結局四百四十万（濠洲）磅の輸出減となつて居る。

全輸出額は過去一ケ年に千五百九十万（濠洲）磅から千七百九十（濠洲）磅に目醒しい増加をして、濠洲輸出貿易中小麦に代つて第二位となつた。更に目覚しい輸出増加は鉄及鉄鋼に見られるが、之は過去一年間に約一〇〇%の増加で、二百卅万（濠洲）磅に達した。此の濠洲重工業の目醒しい発達は、英國が防空用のため濠洲鋼を購入して居ることでも理解できる。

一九三七―三八年の貿易逆調から当然予想される通り、輸入額も一九三八―三九年には相当の低落を演じ、一億四十三百万（濠洲）磅から一億二千八百（濠洲）磅に減つた。輸出とは全く逆に此の輸入額の減少は、輸入品價格の下落のためではなく、殆んど全く輸入量の減少に基いて居る。コンモン、ウエルス銀行調査の輸入價格指數によると、（一九三二―三三年を一〇〇として）一九三八年第二四半

13, 10, 10,000–オカモトヤ印

期に一〇六だったのが、一九三九年第一四半期には一〇五になったのみで、一九三八年六月以降の輸入価格の低落は全く取るに足らぬものである。一九二八年以降の此の指數を通覧すると、濠洲の如き低技〔軽工〕産業國が輸入せねばならぬ高技〔交〕完成品價格と比較して、國内の低技〔軽工〕生産品價格が著しく大幅の高低を演ずるために償めねばならぬ困難がよく判る。一九二八年以降、前記輸出價格指數は最低一九三二―三三年の八一と最高一九三六―三七年の一三〇の間を動りて居るのた。同期間の輸入價格指數は最低一九三三年及一九三四年の九七と最高一九三二年の一一八の間を動りて居るのみである。

輸入額低落の主要原因は、金属及（自動車を含めた）機械類が一九三七―三八年の四千七百万（濠洲）磅から一九三八―三九年の三千九百万（濠洲）磅に落ちた為である、繊維製品も一六％といふ相当な減少ぶりである。然し、輸入の減少は輸出價格の下落を補ふに充分でなかった。その結果、貿易のバランスは低落して、一九三八―三九年輸出超過は前年一千四百九十万濠洲磅に比較して、一千百六十万（濠洲）磅に落ちた。

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

英國は依然濠洲対外貿易の最重要國である。英國との貿易總額は一億一千七百万(濠洲)磅で濠洲貿易總額の四四%である。英國への輸入は、一九三七―三八年濠洲輸出總額の五五%から一九三八―三九年四七%と云ふ具合に比較的少いが、英國からの輸出は前記両年度とも濠洲輸入總額の四〇%で餘り変動はない。英國に次いで重要関係を有するは米國で、總額三千八百万(濠洲)磅の貿易額を有して居る。米濠貿易の主要品目は濠洲からの金輸出で、此の金輸出増加のため一九三七―三八年対米一千百万濠洲磅の輸入超過が一九三八―三九年百万(濠洲)磅と少しばかりの輸出超過に轉じた程である。貿易總額の順位で行くと、次は貿易總額一千百万(濠洲)磅の加奈陀である。

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

一一、土耳古貿易の矛盾

エコノミスト誌 八月五日

土耳古貿易統計を一見すれば、同国の経済問題の性質が闡明となる。土耳古の輸出総額は一九三七年度一億三千七百九十八万四千土耳古磅、一九三八年度一億四千四百九十四万七千土耳古磅で之に対して、同期の輸入総額は夫々一億一千四百卅七万九千土耳古磅及一億四千九百八十三万七千土耳古磅である。（一磅は五、八五土耳古磅）

主要貿易国との土耳古の輸出入額内訳をみると、独乙が如何に速かに且つ完全に土耳古市場を風靡したかが一目瞭然である。最近三年とナチ革命の年たる一九三三年と危機前の年として一九二九年とを取上げてみるに、次の表の通りである。

~~輸出額の国別パーセンテージ~~

土耳古輸出貿易の相手国別による百分比

	一九二九年	一九三三年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
独乙	一三・二六	一八、九五	五〇、九九	三六、五三	四二、九二

13, 10, 10,000-オカモト印

(チェッコスロバキヤ)	二、三四	三、八二	三、四〇	四、四二	三、四五
米國	九、九一	一〇、四六	一一、一三	一三、九二	一二、二六
伊太利	二一、八〇	一三、四三	三、六八	五、二七	一〇、〇五
英國	九、六三	八、九三	五、三九	七、〇八	三、四一
佛國	一二、六三	六、四二	三、二五	三、八二	三、二八

土耳古輸入貿易の相手國別による百分比

	一九二九年	一九三三年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
独乙	一五、二八	二五、四〇	四五、一〇	四二、〇八	四六、九九
(チェッコスロバキヤ)	六、〇三	四、六四	三、九一	二、六三	三、八五
米國	六、六九	三、一四	九、七一	一五、一二	一〇、四六
伊太利	一二、四九	一一、四四	二、一八	五、三二	四、七五
英國	一二、二三	一三、四八	六、八八	六、二三	一一、二一

13, 10, 10,000—オカモトヤ印

佛國	一〇、四一	六、五七	二、五一	一、〇八	一、三二

即ち独乙はチェッコスロバキヤ合併以来、土耳古輸入総額の五割を供給し、また同國輸出総額の五割を引受けて、全く土耳古市場を支配して居るに対して、英佛両國は土耳古と政治的には結んで居るものゝ、貿易額は年々逓減する状態にある。

ナチの貿易政策を知るものにとつては、斯る状態に立到つた事情は直ちに理解できる。即ち、土耳古の如く工業化の遅れた國から原料品を買ひ自國の工業製品を売ると云ふ独逸の有利な立場に乗じて優秀な売込みが盛んに行はれて独乙商社は續々と土耳古國内に地歩を占めると云つた貿易上の優越性の外に、独乙の輸出商は競争國の三割乃至六割で引合價格を出せると云ふ貿易にみする國家補助があるからで、云はゞ、独乙は貿易價格の國家操作を行つて、土耳古輸出品に対し國際價格より遙かに高い價格で買取り一年そこそこで土耳古輸出品を競争不可能の高價格で他國から隔離してしまひ、一方土耳古から独乙への輸出代金は独乙からの輸入にのみ有効な独乙不換馬克に凍結させてしまつた

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

のである。本年六月土耳古への独乙の債務は実に五百卅万二千土耳古磅に達した。

土耳古は此の状態を非常に憂慮して居る。土耳古輸出入貿易の五割を独乙に占められて居るのに、土耳古は独乙輸出入貿易の一分六厘七毛乃至二分八厘一毛しか占めて居ない。斯る状態は決して対等ではなく、土耳古が全く独乙に依存して居る。若しナチス流に政治から経済を分離できるものなれば、土耳古は喜んで独乙の生活圏に入って其処で経済的安定を享受するに甘んずるであらうが、それは行かぬので、土耳古は輸出品の吐け口を他に見出して、独乙への経済的依存を少からしめんと努力するのである。英土貿易進展の可能性が熱心に論ぜられて居るのは此の點からである。土耳古の輸出入貿易を仔細に見れば、英国が更に割込む余地がないといふが如き本質的な理由はないようである。一九三七年及三八年の土耳古重要輸出品をみると（重要性の順に）煙草、葡萄、胡桃、木棉、小麦、無花果、クローム、大麦であった。そのうち煙草は他の品目全部の總輸出額と同額である。また土耳古輸出總額に対しては一九三七年には三分の一、一九三八年には四分の一であった。土耳古重要輸入品は（之も重要性の順に）各種鉄製品、鋼鉄、機械、綿糸及綿製品、毛糸及毛製品、

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

燃料及鉱油であった。英國は之等を実際に全部供給し得る素晴しい立場にあるのに、一九三八年独では鉄製品及鉄鋼と機械類の五割以上と木綿及毛製品の約三分の一を買込んでゐる。その理由は簡単だ。即ち、英國は土耳古から物を買はないからである。此が英國の対土貿易不振の根本的理由である。今日英土貿易は、一九三六年九月調印の為替清算協定及一九三八年五月の同協定修正によって行はれて居る。此の修正によって、英國からの輸入に、割当制が課せられた。今日（一九三九年六月）土耳古は為替清算勘定で千百五十九万三千五百土耳古磅の未清高をもち、一方対英輸出は一九三八年五割減といふ状態で、英土貿易は全くの行詰りである。此の時期に英國は土耳古への売込を二倍以上にした。（此は土耳古が英國品を輸入せんと望んでゐる證左である）――此の輸出入の不均衡が今日の行詰りとなったのである。

英國の対土クレヂツトが（表面は英國貿易業者に対する補助の形式で假装して[illegible]）行はれても、英國市場が土耳古品に対して閉鎖されて居る限り、今日の行詰りは打開できない。昨年一千六百万磅の対土クレヂツトの供與が行はれたが、英土貿易に何等寄與する処なく、最近

13, 10, 10,000–オカモトヤ印

も一千万磅の貿易クレヂツトが設定されて、巨額の輸入契約をせるブラザーツやカラビユーク製鋼の支拂と土耳古政府が接收せる英國居留地の旧債（鉄道、電話等）償還のためイヤーマークされた。近き将来には更に巨額のクレヂツトが設定さるるものと信ぜられて居り、此は大規模な産業設備や交通機関改善などに使用さるると思はれるが、土耳古の対英輸出が改善されない限り、此等クレヂツトの利拂並に償還の問題は果して如何なるか

巨額なクレヂツト設定を要する問題だが、最近非常に興味ある方法が論ぜられて居る。即ち、先づ為替清算を整理し、土耳古磅をスターリングに釘付け（一英磅は十土耳古磅に）して、土耳古の物価水準を世界的水準にまで引上げて、その全経済機構を支えて行く方法である。然し斯る方法を説れば、土耳古全経済機構を危険極まる混乱に陥れるであらう。外國貿易の五割までを独乙市場に依存する土耳古としては、他に新市場を発見する確信なくしては、一夜にして自由貿易に立帰る譯には行かない。現在土耳古は独乙に代るべき新市場発見の確信がないのだ。唯一の解決方法は、土耳古の対英輸出を増加するにある。煙草こそ先づ手をつけねばならぬ商

13, 10, 10,000–オカモトヤ印

品である。米国からの煙草輸入を五分減らせて土耳古煙草に代へるだけで、問題は実際的解決の端緒につくのである。此の特殊な貿易政策を遂行するに当り、種々な障碍はあらうが、此を克服し得なかった場合、英国は如何なる立場に立つかを充分考慮する必要がある。即ち、今のまゝ戦争でも始まれば、英国は経済的に不具な同盟国と一緒に戦はねばならないのだ。適当な先見と準備さへあれば、必要な対策が樹てられて、先づ平時に於て負擔を軽くしておくことが出来るのである。

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

一三、土耳古貿易　エコノミスト誌九月九日

一九三九年初から五月までの土耳古貿易の輸出總額を前年同期と比較すると殆んど同一である。然し、各品目についてみると、次の通りに増減がある。

	品目	一九三八年一月……五月	一九三九年一月……五月
輸出増加したもの	モヘヤ毛織物	九九九、〇〇〇 土耳古磅	三、九八〇、〇〇〇 土耳古磅
	羊毛	六一六、〇〇〇	一、二七六、〇〇〇
	阿片	三七〇、〇〇〇	一、一〇六、〇〇〇
	鶏卵	二九四、〇〇〇	九一三、〇〇〇
	胡桃	六九、〇〇〇	五二二、〇〇〇
輸出減少	煙草	一三、三八八、〇〇〇	一一、五二五、〇〇〇
	棉	四、〇三七、〇〇〇	二、四九〇、〇〇〇
	乾葡萄	三、二五〇、〇〇〇	一、〇六四、〇〇〇

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

セルモノ

小麦	二、八〇三、〇〇〇	九二八、〇〇〇
ライ麦	一、二四四、〇〇〇	二六三、〇〇〇
オレンヂ	三六七、〇〇〇	一九〇、〇〇〇

一九三八年五月末土耳古貿易の輸入總額六千四百廿万八千土耳古磅が、本年五月末には僅か五千五百四十四万二千土耳古磅に落ちて居る。然し、そのお蔭で、輸入超過額は一千四百七十五万土耳古磅から五百六十万土耳古磅に減少した。そこで年末には輸出超過が期待されて居る。

然し、土耳古輸入貿易の四三％を占めて居た独乙が五二％六に躍進し、輸出貿易でも三五％六から五〇％二に飛躍したことを見落してはならぬ。土耳古から英國への輸出は百六十四万七千土耳古磅、即ち土耳古輸出貿易の僅か三％に過ぎず、英國から土耳古への輸入は三百十八万四千土耳古磅、即ち土耳古輸入貿易の五％七に過ぎない。未だ最近の數字については当局発表が無いが、現在の材料から推論すると独乙と伊太利が土耳古輸出貿易の三分の二を独占するであらう。然し、独伊の此の購買力は政治的理由で次第に減少して行き、然かも独伊に代って

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

土耳古から購買する國がないと云ふことが、同國貿易界の関心事なのである。英國がその莫大な経済力を以て、土耳古國内市場を支配する高物價と世界物價水準との開きを訂正して、適正價格で土耳古商品を大量に購買することを一般は望んでゐる。斯る方法は、英國が土耳古と政治的に結び其の軍備計画を援助して居る事実に大きな支援となるであらう。

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

一四、瑞典の鉄鑛　エコノミスト誌八月五日

瑞典は世界に於ける鉄鉱の大輸出國で、量から云へば佛国に次ぐも質から云へば佛国を凌いで居る。その鉄鑛埋蔵量は全欧州の二〇％に達する。

同国の産鉄地方は、輸出用鉄鉱を稼行する北部のラプランド地方と国内市場の為め稼行する中部及南部地方に大別される。

北部産鉄地方―中南部地方の鉄区より遙かに富鑛で、十億砘以上の埋蔵量が予想されて居るが、主として高度燐含有の磁鉄鉱で五七乃至七〇パーセントの鉄分を有って居る。

同地方鉄区は瑞典政府とグレンゲスベルグ、オクゼレーズンド運輸会社が均等出資の下にルーサヴァラ、キルナヴァラ會社を設立して其の独占経営に当らしめ、年産額約九百万砘に達して居る。その最大鑛区はキルナヴァラ鉱山とゲリヴァレ鉱山で、キルナヴァラ鉱山は埋蔵量約七億三千八百万砘、諾威國ナルヴィク港の南方約百哩、バルチック海ルレア港の北方約二百哩にあり、ルレア港は十二月から三月まで凍結するので鉄鉱は主として

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

諾威國ナルヴィクまで鉄道で持出され（その為此の鉄道は同國最初の電化が行はれて居る）同港経由で輸出さる。ゲリヴァレ鉱山は曾て外国数会社によって稼行されて居たが、ルースサヴァラ、キルナヴァラ会社が買収したもので、ルレア港の北方百廿哩の地點にあり埋蔵量二億六千五百万瓲と予想されて居る

中南部産鉄地方―― 此の地方の埋蔵量は約一億一千六百万瓲と推計されるが、数百の群小鉱区が稼行され、主として低度燐分鉱を産出して居る。そのうちグレンゲスベルグ鉱山は例外で、その産鉱は1/10の燐分を有し、百六十四哩距るオクゼレーズンド港経由で一部分を輸出して居る。此の外に瑞典平野の東端にコスクルスクルレ鉱山の大鉱区があるが、之はチエッコスロバキヤのヴヰトコヴヰチ製鉄所が支配するフレヤ鉱山会社の経営である（今日このフレヤ鉱山会社は独乙の支配下にある）このコスクルスクルレ鉱山を除く中南部地方鉱区の九割まではグレンゲスベルグ・オクゼレーズンド運輸会社の支配下にある。

瑞典鉄鉱の主要輸入國は独乙と英國で、昨年此等両國は瑞典からの輸入貿易額の夫々

13, 10, 10,000―オカモトヤ印

四一%と二五%に当る鉄鉱を買って居る.

	生産量 北部	生産量 中南部	生産量 合計	輸出量 輸出総量	輸出量 英國へ	輸出量 独乙へ	独乙への輸出量の瑞典鉱産総量に対する百分比
一九一三年	四、九一四瓲	二、五六二瓲	七、四七六瓲	六、四〇〇瓲	六七三瓲	四、九七七瓲	六七
一九一四—一八年 一ヶ年平均	三、七六五	二、八九四	六、六五九	五、三二〇	五五〇	四、三二六	六五
一九二九年	八、二二一	三、二四七	一一、四六八	一〇、八九九	一、〇七五	七、九五五	六九
一九三二年	二、一八〇	一、一一九	三、二九九	二、二一九	二五〇	一、五一五	四六
一九三六年	七、四六七	三、七八三	一一、二五〇	一一、一九八	一、四六七	八、一三一	七二
一九三七年	一〇、七七五	四、一七八	一四、九五三	一三、九五九	二、二一三	九、四六四	六三
一九三八年	九、五三一	四、三九七	一三、九二八	一二、六八五	一、六五〇	八、九四五	六四

英國の製鉄業は瑞典の高度燐分鉄鑛を北阿佛利加鉱山から持って来る低度燐分鉄鑛とを混用して居る. 最近独乙は瑞典からの鉄鑛供給を更に大量確保して、戦時の供給維

13, 10, 10,000–オカモトヤ印

持を圖る戦略的手段を用意するに懸命である。

瑞典では政府が全鉄鉱業を統制してその生産制限を強行し、増産は議會の協賛を経ねばならない。北部産鉄地方の生産量引合は最近三ケ年間平均九百万砘から一千万砘に増加された。近く大戦勃発の曉には、移行許可量は更に増加され、各國に平等に賣捌かれるであらう。

一九三六年度瑞典鉄鑛輸出量は 北部産鉱は諾威ナルヴイク港から五百五十万砘、とバルチック海ルレア港から二百七十万砘で、中南部産鉱はバルチック海ゲフレ港四十万砘と同じくバルチック海のオクゼレーズンド港から百九十万砘が主なるものである

戦時に英國は北部鉱区から諾威ナルヴイク港から輸入出来、また中南部鉱区からも北海のゴッテンブルグ港を利用すればよい。独乙への供給鉱は少くともルレラ港が凍結中は輸送に疑問がもたれる。

石炭不足のため製鉄業の発展が阻害されて鉄鉱石の輸出国として甘んじて居た同国も最近は水力電気を利用して製鉄業を開始したが未だ見るべきものはない

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

一五、ラトビアの工業

エコノミスト誌九月九日

ラトビアは未だ農業國の域を脱せず、農産物と木材が主要産物で、主要輸出品は一九三六年木材三千七百万ラット、亜麻一千六百八十万ラット、バター二千五百卅万ラット等であつた。因に同年の輸出額は一億三千八百万ラット、輸入額は一億二千三百万ラットであつた。

最近のラトビアの事業界には餘り大きな変化が生じて居ない。労働者の就業状態は極めて良好で、或る種の熟練工の如き不足を告げて居る有様である。最近の当局発表によると、農産物は大豊作であるも、その後の旱魃のため若干の減少はあらう。輸出は一九三九年前半相当の増加を見せて、前年同期の九千四百万ラットに比して、一億一千八百万ラットである。輸入は一億一千百万ラットから一億一千八百万ラットに増えた。輸入額の増加は戦争又は封鎖の危険に備へて購買が急増した為である。（一ラットは為替相場約一円弱）、

農業國だつた国が工業化される際その速度が極めて早いように、ラトビアの工業発展も実に目覚しい勢であつた。然し此の工業発展は國家の統制下で行はれたので、重要工業部門は殆ん

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

ど全部大會社で代表されて居る。之等の國營又は準國營の企業を有機的協力せしめるため一つの經濟聯合團体に組織される。此の聯合團体の目的は、國家の全政治經濟計画に基いて活動し、賃銀、價格及販賣政策を共通にし、合理化を組織的に進めるにある。工業の合理化には特別な関心が拂はれて、そのために今春特別な研究機関が創設された。此の合理化計画は既に製材業、ベニヤ板業、建築及織維工業に適用されて、例へばベニヤ板製造会社は十四から八に減ぜられ、輸出向の製材所は再組織されたうへ新式機械が設備された。

最近の工業發展は、一九三八年末議會を通過した法律により、工業及商業上のシンヂケート設立が奨勵された結果である。此のシンヂケートは財務相の命令又は工務局又は商務局の認可のもとに関係業者の発企により設立される。シンヂケートの會長は會員により選ばれるが、財務相の認可を必要とする。シンヂケートの目的はカルテルと異つて會員の義務は非常に大きく、秘密製作法をすら會員に公開せねばならず、その違反の制裁は厳重である。

此の法律は、前述の通り工業と商業とをシンヂケートに組織し、國營又は準國營企業にその統制

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

権をもたせて、一切を國家の支配下におくといふ遣り方である。

13, 10, 10,000-オカモト印

一六、バルチック沿岸三小國

エコノミスト誌九月十六日

エストニア、ラトビア及リツアニアの沿バルチック三小國では、國民は全く冷靜に戰爭の勃発を迎へた。リツアニア政府は中立を守るため、近年次の兵を召集した。ラトビア政府も、同様の意志で、同じ手段をとつた。然し、斯る軍事的方面は大したことはない。此等小國の立場から最も憂慮すべき戰爭の影響は、外國貿易が完全に覆されたことである。例へば、エストニアでは、全外國貿易の約二五－三〇％、海上輸送関係の外國貿易のみを見れば、實に九五％が戰爭の脅威をうけて居る。エストニア貿易の一〇－一五％に達する對芬蘭及瑞典の定期航路が辛ふじて維持され、独乙とは非定期航路が通じて居るのみである。

最も重大な関係は、英國との貿易中絶である。英國はエストニア外國貿易の三〇％を引受けて居り、（従つてラトビア及リツアニアにも大体同様な関係をもつて居る）此等三小國への原料の主要供給國である。此の貿易は大部分英國船で行はれて居り、戰爭のため英國船が入らなくなつたことは深刻な打撃である。芬蘭及瑞典を通じて対英貿易を継續する

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

機倉はある。既にストックホルムへ英國其他海外向けの積荷をもつた船が出發して居る。

冷藏の余地がないため、エストニア産バターの英國仕向品の一部が獨乙へ送られたが、對獨爲替勘定のバランスを保つため、獨乙への輸出増加をなす意義なきことは大体明らかである。最近エストニアの對獨爲替勘定は八百五十万（エストニア）クラウン（一磅は十八、二クラウン）が四百万クラウンに激落した。對獨輸出を増加するには、輸入も多くせねばバランスがとれぬ。然し、獨乙は現在エストニアに完成品輸出を餘り多く出來ない立場にある。石炭又は鉄さへも輸出できるかどうか疑問である。近くエストニア代表が伯林に派遣されて貿易調整に關する協議が行はれることには可能性がある。現在一般には非常な混亂狀態にある。スカンヂナビヤ諸國の援助の下に、英國と貿易を繼續する方途を發見せんと一般に望まれて居る。

政治狀態緊迫のため、通貨市場にも大きな影響があつた。銀行からの預金引上も予期されたが、大した困難はなかつた。エストニアでは、瑞典及芬蘭の通貨政策が多大の利害關係をもたれて追隨されて居る。エスチ銀行は政府と密接な連絡の下に、通貨を磅スターリング

13, 10, 10,000—オカモトヤ印

に並行させようとして居る。然し、エストニアは通貨政策に没頭するには餘りに小國なので、瑞典クラウンに先づ追随したことが磅スターリングに對する動揺を生ぜしめて、國内事業関係に可成りな被害を生ぜしめるであらう。

13, 10, 10,000-オカモトヤ印

群馬県立図書館
0706603-8